

# 生活・総合

第35号



令和6年度

埼玉県連合教育研究会  
埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会

埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会は、平成2年度の発足以来、会員の皆様の熱意ある取組の継続、また教育行政関係の皆様の多大な御理解・御協力をいただき、充実した活動を積み重ねてまいりました。本年度は、8年ぶりに「関東地区小学校生活科・総合的な学習教育研究会関東大会」を本県、埼玉県熊谷市で行いました。埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会の本年度の事業として、大変大きな成果を上げることができました。御尽力いただきました指導者並びに会員の皆様、お世話になりました関係の皆様に、心より感謝申し上げます。

本年度は、主に以下のような事業を実施いたしました。

#### 1 総会及び講演会 <6月14日：オンライン開催>

- ・総会は、オンラインにて行いました。円滑な議事進行の基、昨年度の事業報告・決算報告、本年度の事業計画・予算案が承認されました。
- ・講演会では、元文教大学教授 嶋野 道弘先生より、「これからの生活科・総合的な学習の時間に求められること」という演題で、御講演をいただきました。約180名を超える参加がありました。変化する社会において求められる教育の在り方、そして、生活科・総合的な学習の時間の指導の重点等を学ぶことができました。

#### 2 第33回研究発表会 <7月30日：オンライン開催>

- ・生活科の1実践と総合的な学習の2実践、合計3本の実践提案と研究協議を行い、共栄大学教育学部教授 小川聖子先生より指導講評をいただきました。提案に対して、効果と今後の見通しについて具体的に御指導をいただきました。

#### 3 本研究会委嘱による授業研究会

- ・大里地区 熊谷市立新堀小学校 10月25日【関東地区大会】
- ・さいたま市 さいたま市立東岩槻小学校 11月21日【総合】
- ・入間地区 川越市立川越第一小学校 2月7日【生活・総合】

各地区及び授業研究校では、貴重な授業提案と熱心な研究協議が行われました。指導者の先生方には丁寧な御指導をいただき、各地区の研究推進・研究交流が図られました。

#### 4 指導事例集第33集の刊行 <2月>

県内各地区から推薦された指導法研究委員が、2年間にわたり研究・実践し執筆した原稿を、オンライン会議にて検討を重ねて編集しました。児童生徒の興味関心を生かした実践が数多く紹介されています。広く県内各校での実践に御活用いただけたら幸いです。

結びに、本会報の発刊にあたり、御尽力いただきました編集委員の皆様並びに事務局の皆様にも厚く御礼を申し上げ、挨拶といたします。

あいさつ

埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課 指導主事 古畑 隆憲

埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会におかれましては、令和6年度も大きな成果を収めて諸事業を終えられ、ここに研究収録を刊行されますこと、心よりお喜び申し上げます。また、本県の生活科、総合的な学習の時間の学習指導の充実に、多大な御尽力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

今年度は、第26回関東地区小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会埼玉大会が熊谷市立新堀小学校を会場に開催されました。『つなぐ・いかす・深める ～ワクワクする本物の学びを目指して～』を大会主題とし、これからの生活科、総合的な学習の時間に求められる学びを参加者全員で共有できた素晴らしい大会となりました。また、地区別授業研究会、研究発表会、指導法研究委員会等も開催され、授業を基にした研究協議と実践研究の提案などが行われました。本研究収録には、これら県内の各地域で熱心に研究・実践された成果がまとめられております。是非、多くの方に授業改善の参考として御活用いただき、生活科及び総合的な学習の時間の充実に向けた取組が、各学校でより一層進められますことを期待しております。

さて、埼玉県では、今年度、第4期埼玉県教育振興基本計画を策定しました。第3期計画を継承した「豊かな学びで未来を拓く埼玉教育」を基本理念に、社会への関わりや多様な人々との交流を通じて新たな価値を創造し、人生や社会の未来を切り開いていくことのできる力をはぐくむ教育の一層の充実に努めております。また、各教科等の学習の充実に向け、埼玉県小学校教育課程実践事例に掲載する事例を追加作成しました。生活科、総合的な学習の時間においても、それぞれ3つの事例を作成し、各実践のポイントを分かりやすく丁寧に説明しています。令和7年3月に県のホームページに掲載する予定ですので、これまで公開している実践事例と併せて御活用いただけましたら幸いです。

結びに、県内の生活科、総合的な学習の時間の学習指導の充実と、本研究会のますますの発展を御祈念申し上げ、挨拶といたします。

さいたま市教育委員会学校教育部教育課程指導課 指導主事 持木 沙和子

令和6年度埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会の諸事業が多大な成果をあげ、ここに研究収録が刊行されますことに心からお祝いを申し上げます。また、日頃より本市の生活科、総合的な学習の時間の充実に御尽力いただいておりますことに心より御礼申し上げます。

今年度本研究会では、昨年度に引き続き「児童の気付きや概念的理解を質的に高める指導の工夫」を研究主題として掲げ研究を進めてこられました。生活科における「気付きの質」や、総合的な学習の時間における「概念的理解」の高まりについて考察し、児童生徒が変容したきっかけについて分析するとともに、教師の適切な支援についても整理しようとする本研究は、二年次を迎え、児童生徒の変容と教師の支援の関係が明らかになり、大変素晴らしい成果を挙げられました。この10月に盛会のうちに開催された第26回関東地区小学校生活科・総合的な学習の時間教育研究協議会埼玉大会でも、教師の適切な支援のもと、児童の学びがつながり生かされ深まる姿が示されましたことは、参会者にとって多くの学びとなりました。本研究収録には、これらの研究成果をはじめ、生活科、総合的な学習の時間の授業の在り方を具体的に示唆する充実した実践が掲載されております。さいたま市教育委員会といたしましては、今後も、埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会における取組や、県内の優れた授業実践等を市内に紹介するとともに、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善の推進に努めてまいります。

結びに、この研究収録が各学校においてより多くの先生方に活用され、埼玉県及び本市の生活科、総合的な学習の時間の指導が充実されますことを期待するとともに、埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会がますます充実、発展されますことを御祈念申し上げ、挨拶といたします。

～ も く じ ～

まえがき	埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会長	竹森 努	1
あいさつ	埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事	古畑 隆憲	
	さいたま市教育委員会学校教育部教育課程指導課指導主事	持木沙和子	2
もくじ	-----		3
巻頭論文	生活科・総合的な学習の時間の意義		
		淑徳大学 教授 岡野 雅一	4
1	指導法研究委員会 指導事例報告	-----	8
2	第33回生活科・総合的な学習の時間教育研究発表会報告	-----	3 1
3	授業研究委嘱校報告 熊谷町立新堀小学校	-----	3 5
	さいたま市立東岩槻小学校		
	川越市立川越第一小学校		
4	令和6年度講演会記録	-----	3 8
5	事業報告	-----	4 2
6	埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会会則	-----	4 3
あとがき	埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会副会長	萩原 美樹	
編集委員の構成	-----		4 5
令和6年度役員・理事一覧（別紙）			

## 生活科・総合的な学習の時間の意義

淑徳大学 岡野 雅一

はじめに

昭和 42 年、教育課程審議会答申は、低学年社会や低学年理科について、説明中心の学習から経験を豊富に自ら働きかける学習へ転換する改善の必要性について指摘した。その後も様々な議論を重ねて、平成元年の学習指導要領において生活科が誕生した。一方で、平成 8 年の中央教育審議会答申では、横断的・総合的な指導を一層推進し得るような新たな手立てを講じて、豊かに学習活動を展開していくことが極めて有効であると考えられ、一定のまとまった時間を設けて横断的・総合的な指導を行うことを提言した。その後、平成 10 年の学習指導要領において総合的な学習の時間が創設された。

この間、生活科と総合的な学習の時間のあり方については、様々な議論が繰り返されてきたところではあるが、本稿では、改めて、生活科と総合的な学習の時間の意義について、大学生の学びとカリキュラム・マネジメントの視点から考えてみたい。

### 1 卒業論文と総合的な学習の時間

平成 29 年 4 月、私は現在の職場に入職をした。ご存知のように、大学は自身で学ぶ学問を選択し、専門的な知識や技能を身に付ける場である。学生が、その集大成として履修するのが卒業論文である。日々の講義や演習などの授業はもちろんのことだが、卒業論文の取り組みに学生の力量が表れる。

大学では、日々の授業においてレポートが課される。レポートとは、担当教員から出された課題をこなすものである。つまり、内容については学生自身が執筆するが、課題については教員から与えられるものである。一方で卒業論文とは、これまでの学びを通して、自ら「問い」を立て、答えを自ら見付ける営みである。その過程においては、質問紙調査やインタビュー調査などを行い、その調査で得られた結果を整理することが求められる。整理したことをもとに考察をして、「問い」に対する答えとしての「成果と課題」を表現する。この探究の方法は、まさに総合的な学習の時間そのものであると言える。総合的な学習の時間の目標については、学習指導要領にある通りだが、卒業論文を仕上げるためにある授業科目「卒業研究」の授業目的、授業内容は次の通りである。

#### 【授業目的】

ゼミでの討論、中間発表や卒業論文発表会など、卒業研究を通して得た知見や知識を総合し、大学 4 年間の学びとして教員に必要な専門的知識を深めるとともに他者に説明する能力を身に付ける。

#### 【授業内容】

卒業研究では、自分自身が設定したテーマに関連する過去の研究に関する文献調査を行い、調査や研究を計画し、遂行することによって、研究手法を学ぶと共に、研究テーマに対して知識と理解を得る。また、前期の終わり頃に卒業論文の中間発表会、そして後期の終わり頃に卒業論文の成果を卒論発表会にて発表し、

発表技術を習得すると同時に、卒業論文を執筆することにより教員に必要な専門的知識を学ぶ。

※淑徳大学教育学部 岡野科目「卒業研究」シラバスより一部抜粋

これからも分かるように、卒業論文は、まさに正解が一つの問いに挑むのではなく、様々な手法を駆使して、自ら立てた問を解明するために学ぶと同時に、その成果を他者に伝える点に重きがある。ところで、卒業論文執筆に際して、学生に伝えていることがある。

- ① 論文は、相手を説得するための手法である。
- ② 相手を説得するためには、まずは自分の考えを述べる必要がある。そして、自分の考えが正しいことを論証して、その考えが正しいことを示さなければならない。
- ③ つまり、論文を執筆するにあたっては、自分の主張を、根拠や理由を示しながら書かなければならない。

論文とは、正解のない問いに対する納得解を見出さなければならないと言われている現代において、まさに必要とされている手法であると言える。一方で、これらのことから分かるように、卒業論文と総合的な学習の時間は、軌を一にしている学習であるとも言える。

## 2 卒業論文と生活科

卒業論文を書く際、多くの学生が悩むのが、問いを立てることである。学生は、小学生のころから先生に出された問題を解くことに慣れている。これは与えられた問題を解くという営みである。高校入試、大学入試のための勉強も試験に合格するためのものであり、ここでも入試本番で出される問題を解く練習を重ねる。つまり、学生は問いを与えられる学習に慣れているが、自ら問いを立てるという機会が少ないのかもしれない。

しかし、小学校でも、問いを立てる場面は存在する。生活科の学習の中で、子供は無意識に問いを立てる。例えばドングリごまを作る場面では、次のような子供の姿が見られる。

.....

子供は、長く回り続けるドングリごまを作ろうと、いろいろな形のドングリを集める。ドングリに楊枝を刺してコマにするが、その長さも考えながらコマづくりをする。完成したらそれを回してみる。しかし、長く回らない。そこで子供は長く回り続けるようにと思いながら試行錯誤を繰り返す（思考力・判断力・表現力の基礎）。その中で、こうすれば長く回り続けるということに気付く。何度も繰り返す中で、その方法は確実なものとなり、長く回り続けるコマが完成する（知識・技能の基礎）。さらにもっと長く回り続けるコマにしようと友達と知恵を出し合い遊びをよりよいものにしようとする（学びに向かう力・人間性）。

.....

この中には、何度も自分なりに問いを立て、それを試している子供の姿を見ることが出来る。生活科は、子供が思いや願いをもつところから学習がスタートする。その思いや願いに支えられ活動や体験をする。活動や体験をする中では様々なことを感じ、考え、表現する。この繰り返しのうちに、前述したドングリごまの遊びに見られる子供の姿がある。生活科において、子供は遊びをよりよくしようと試行錯誤を繰り返す。それは、まさに自ら立てた問いの解決に向けた学びと言える。

さらに、総合的な学習の時間においても、その目標の中には、「(2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する

ことができるようにする。」とある。この目標からも分かるように、生活科だけではなく、総合的な学習の時間においても、子供たちは、自らが様々な「問い」を見出す体験を重ねてきていると言える。

### 3 生活科、総合的な学習の時間とカリキュラム・マネジメントの可能性

現在、各学校においては、カリキュラム・マネジメントの実現に向け、様々な手立てが講じられているが、教科等横断的な視点で教育課程を編成する際には、理論だけではなく、紙面上への表現方法も含め、具体的な手順を確認することが必要になる。

私は、2019年度に、埼玉県内公立小学校の教員に協力を依頼して、年間指導計画（第3学年、第5学年）をもとに、関連的な指導が可能な学習内容の洗い出しを行った。その際の、各教科等の登場のべ回数について、表1（第3学年）、表2（第5学年）に示す。

表1 関連的指導に位置付いた各教科等のべ回数（第3学年）

国語	社会	算数	理科	音楽	図工	体育	道徳	外国	総合	特活
17	7	1	3	1	3	4	0	1	5	3

表2 関連的指導に位置付いた各教科等のべ回数（第5学年）

国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国	道徳	総合	特活
14	12	0	1	0	2	3	0	0	2	4	2

表1、表2から、単元間をつなぐ場合、国語科との関連について頻度が高いことが分かる。

また、2023年度には、第1学年生活科「たのしい あき いっぱい」の実践を通して、児童がどのような教科等の学習を生かしていたか調査を試みた。その調査では、65名中、41名の児童が、本単元で活動するにあたり生活科や他教科等で学習したことが役に立ったと回答している。役に立ったと回答した児童のうち、該当する教科等についての、のべ回答数は表3の通りである。

表3 役立った教科等の回答数

国語	算数	生活	音楽	図画工作	体育	道徳	学級活動	その他
36	4	0	2	17	0	8	5	1

この結果からも分かるように、国語の学習が役立っていると回答している児童が多く、全体の49.3%となっている。続いて多いのが図画工作で、全体の23.3%であることが分かる。

これらの結果からも、各教科等の頻度については実態を把握することが出来るが、大切なことは、この結果をもとにどのように教育課程を編成し、授業実践に取り組むかである。

このことを実現するためには、教師側の視点ばかりではなく、児童側の視点も踏まえる必要がある。ここでは、埼玉県内公立小学校における総合的な学習の時間の事例におけるカリキュラム・マネジメントについて紹介をする。第3学年の事例であり、単元名は、「わたしたちのすむ町ってこんな町」、単元の目標は、「自分たちの町や学校のよさを探したり、地域の人のお話を聞いたりして、自分たちの町や学校をよりよくするための活動を通して、町の環境を守ることに関わっている人々の思いに気づき、仲間と協力して知恵を出し合い、問題の解決方法を考えるとともに、学んだことを自らの生活や行動に生かそうとする。」である。

指導計画等は、紙面の都合上割愛するが、表4は本単元におけるカリキュラム・マネジメ

メント（主に関連的指導場面）をまとめたものである。「教科等」は、本単元で生かすことを想定している教科名である。「教科等での学習内容」は、本単元に関連のある「教科等」の学習内容である。「本単元での関連付ける場面」は、実際に関連付ける学習内容をこの総合的な学習の時間のどの場面で関連付けるかを示したものである。最後に「関連付けるための手立て」は、児童に関連付けを意識させるための手立てである。ここで重要になるのは、「関連付けのための手立て」である。カリキュラム・マネジメントは、教師側の論理である。その効果的な実現のためには、カリキュラム・マネジメントを児童の側にも意識させることが重要である。そのために、既習事項を意識化するための手立てを示したのが「関連付けるための手立て」である。今後、各学校においては、効果的なカリキュラム・マネジメントの実現のためにも、教師側の論理と併せて、児童の側に立った論理も視野に入れる必要があると考える。

表4 本実践における他教科等（国語科、算数科）との関連

	教科等	教科等での学習内容	本単元での関連付ける場面	関連付けるための手立て
関連①	国語 「たしかめながら話を聞こう」	聞きたいことを中心に考えて聞き、必要なことをよく知るために質問をして、自分の考えを持つ。	地域の人にインタビューする場面において、国語科で学習したコンセプトマップを活用する。	事前に、コンセプトマップ活用カードを作成・配布する。
関連②	国語 『くらしの中の「和」と「洋」について調べよう』	何をどのように比較しているのかを読み取り、比較の仕方を意識して、調べたことをまとめる。	校庭に落ちているごみと地域に落ちているごみの相違点や共通点を探し、観点ごとに整理する。	国語科で学習した比較についての方法を教室に掲示して、学習活動前に確認をする。
関連③	国語 『人物の変化を捉えよう「走れ」』	物語を通して、中心人物の気持ちがどのように変化したのかということをもとめて、友達と伝え合う。	地域のごみについての問題を解決するために、何ができるのかグループで話し合い、意見をまとめていく。	グループでの話し合いを活発にさせるために、話型を基に司会や記録の役割を明確にしていく。
関連④	算数 「棒グラフ」(3年生)	身の回りの事象やデータを表や棒グラフを用いて整理する。	集めたごみの種類をグラフ化することによって、どこで、どんな種類のごみが多く落ちているのか可視化し、新たな課題が見いだせるようにする。	棒グラフを活用する学習カードを作成し、集めたゴミを整理する。

おわりに

現在、教員養成系の大学においては、多くの大学で往還的学習を積極的に取り入れている。キャンパスの中で理論を学びインプットをする。さらに、ボランティアやインターンシップ等で実践を重ねる。実践したことをキャンパスに持ち帰り、現場での学びを共有するために、アウトプットをする。この理論と実践の往還は、教員養成ばかりではなく、授業づくりにも言えることである。これからの生活科、総合的な学習の時間における授業づくりでも、理論と実践を往還し、より子供に還元できる実践へと発展することを願っている。

【引用・参考文献】

岡野雅一(2020)「カリキュラム・マネジメントの進め方に関する一考察」淑徳大学教育学部年報  
 岡野雅一(2024)「総合的な学習の時間におけるカリキュラム・マネジメントに関する一考察」淑徳大学教育学部年報  
 小熊英二(2022)「基礎からわかる論文の書き方」講談社現代新書



## 指導事例(1)

# 小学校【第1学年】はなを さかせよう【5～9月】

～児童の気づきに寄り添い、思考を促すための板書の工夫～（11時間）

### 1 評価計画の作成について

#### (1) 単元の概要

本単元は、学習指導要領の内容（7）を受けて設定したものである。植物を栽培する活動を通して、植物の育つ環境や、成長の様子などに関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、植物に親しみをもち、大切にすることを育成することをねらいとしている。また、植物を育てるために大切なことを栽培体験から考えたり、成長する様子を観察したりすることに加え、友達と植物の成長の様子を比べたり、自分の発見を伝え合ったりすることで多面的な視点をもち、気づきの質が高まっていくと考える。

そのために、栽培活動において、児童自身の気づきや疑問を引き出す声掛けをし、児童の発見や願いを文や絵で記録に残していくことで、植物に対する親しみと成長への期待をもち、思いを寄せながら主体的に関わることができるようにする。また、観察した植物の成長の様子を比べる学習では、板書を通して考える視点を明確にし、児童の栽培経験を活かした気づきや考えがつながるようにする。

#### (2) 単元の目標

植物を継続的に栽培する活動を通して、育つ場所、成長の様子に関心をもって働きかけ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、植物に親しみをもち、大切にできるようにする。

#### (3) 単元の評価規準

内容項目【(7) 動植物の飼育・栽培】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の 評価 規準	植物を継続的に栽培する活動を通して、植物は生命をもっていることや成長していることに気付いている。	植物を継続的に栽培する活動を通して、植物の育つ場所、成長の様子に関心をもって働きかけている。	植物を継続的に栽培する活動を通して、植物に親しみをもち、大切にしようとしている。
小 単 元 の 評 価 規 準	1	①色々な花の種と、自分のまく種の色や形、大きさなどに着目して比べている。	①花を咲かせたいという願いをもち、大切にしようとしている。
	2	①自分の育てている植物が成長していることに気付いている。 ②植物の成長に合わせて、水のやり方や、支柱立て、鉢の置き場所などの世話の仕方を決めている。 ③友達の育てている植物と比べながら成長の変化を伝え合っている。	②花を咲かせたいという思いや願いをもち、植物の成長の様子に応じて工夫して自ら働きかけている。

3	②植物と自分との関わりによって、植物が元気に育ち花を咲かせたことに気付いている。	④観察の記録を基に、植物の様子や開花の喜びを伝えている。	
4	③植物が一つの種からたくさんの種を増やしていることに気付いている。	⑤成長の過程や、これまでしてきた世話について振り返り、植物を育てることの喜びや楽しさを表現している。	③植物の世話を続けられた自分の成長を実感し、これからも植物を育てていこうとしている。

本単元は、「たねをまこう」「はなをそだてよう」「はなのようすをつたえよう」「たねをとろう」の4つの小単元を設定している。小単元の内容は次の通りである。

① 「たねをまこう」(2時間)

幼児期の栽培経験を教え合い、教科書の様々な植物の花や種を比べた。そして、子供達との話し合いを通してアサガオを育てることに決めた。育てる植物の種を実際に手に取って観察し、種の色や形、大きさや手触りなどから特徴をとらえ、気付いたことを学級全体で共有する。その後、種をまくために必要なことやまき方について話し合い、植物への愛着をもたせ「自分も育ててみたい。」と意欲を高めることができるようにする。

② 「はなをそだてよう」(4時間)

常時活動として、自分のアサガオを世話する時には、アサガオに声掛けをするように促すことで、愛情をもって育てることができるようにする。また、友達の育てているアサガオと比べて違う所や、成長した所に着目できるようにして、気付いた様子をICT端末により写真で記録したり、『みつけたよカード』に絵や文で表したりする。そして、栽培の過程で生まれた疑問や問題点から、クラスのみんで解決方法を話し合い、水やりの方法や、鉢の置き場所、肥料、支柱など植物に合わせた世話の仕方があることを考えながら活動できるようにする。試行錯誤して育てていく過程を通して、「もっと大きくなってほしい。」という願いをもって工夫して育てることができるようにする。

③ 「はなのようすをつたえよう」(2時間)

アサガオの開花は、成長の中で一番大きな出来事であり、児童にとっても一番の喜びとなる場面である。色や形などの記録に加え、咲いた花の数を数えたり、花で色水や押し花を作ったりするなど、開花の喜びを感じることができるようにする。また、これまでの常時活動中の記録を基に、アサガオの成長を自分とつなげて考えることができるようにする。そして、アサガオの開花の様子や喜びを伝え合うことで、自分たちが頑張ったり工夫したりして育てたことで花が咲いたことに気付くことができるようにして、栽培活動への意欲を継続できるようにする。

④ 「たねをとろう」(3時間)

育てたアサガオの種を集め、数を数えたり分かたりしたことを紹介し合うことで、一つの種からたくさんの生命が生まれ、つながれていくことに気付くことができるようにする。また、これまでの栽培活動について振り返り、今まで大切に育てることができた自分自身の成長にも気付くことができるようにする。そして、集めた種をどうするか話し合い、一人一人の思いに合わせた方法で保存したり、作品にしたり、来年の一年生への贈り物にしたりして、今後も植物を育てていきたいという意欲をもつことができるようにする。

(4) 単元の指導と評価の計画 (1 1 時間扱い)

時間	「小単元」 ◎ねらい ○学習活動	小単元の 評価規準 との関連	評価規準から想定した 具体的な児童の姿 評価方法
2	<p>「たねをまこう」</p> <p>◎幼児期の栽培経験を振り返ったり、様々な植物の様子を比べたりしながら、育てる植物を決めたり種をまいたりして、種の色や形、大きさなどの特徴を探し、植物に心を寄せながら大切に育てていこうとすることができるようにする。</p> <p>○種の特徴を探し絵や文で表現する。(1時間)</p> <p>○種のまき方や栽培方法について確認し、今までの経験を基に話し合い、種をまいてみて感じたことを友達と伝え合う。(1時間)</p>	<p>思一①</p> <p>態一①</p>	<p>・色々な種と自分のまくアサガオの種の色や形、大きさなどの特徴に着目して比べている。 [発]・[行]・[カ]</p> <p>・これまでの経験を振り返りながら、種まきに必要なことを話し合ったり、大切に種をまいたりしている。 [行]・[発]</p>
4	<p>「はなをそだてよう」</p> <p>◎植物が成長していく様子に気付き、よりよく育つための栽培方法を考えたり、大きな花を咲かせようとする願いをもったりして世話をすることができるようにする。</p> <p>○成長の様子の違いや、諸問題について話し合い、解決策を実行する。(2時間)</p> <p>○成長の様子について、友達と自分の植物を比べながら写真に撮ったり、変化の様子を『みつけたよカード』に文や絵に表したりして伝え合う。(2時間)</p> <p>【常時活動】</p> <p>○休み時間を利用して、水やり等の世話をする。その際に、自分たちで考えた声掛けをするなどの関わりをしながら工夫する。</p> <p>○水やりの仕方や鉢の場所など、友達と話し合いながら関心をもって世話をする。</p>	<p>知一①</p> <p>思一②</p> <p>思一③</p> <p>態一②</p>	<p>・植物が成長していることに気付いている。 [発]・[つ]・[カ]</p> <p>・植物の成長に合わせて、<u>水のやり方や、支柱立て、鉢の置き場所などの世話の仕方を決めている。</u> (具体例①)[行]・[発]・[つ]</p> <p>・友達の育てている植物と<u>比べながら成長の変化を伝え合っている。</u> (具体例②)[発]・[カ]・[つ]</p> <p>・大きな花を咲かせたいという思いや願いをもち、親しみをもって世話をしている。 [発]・[行]・[相]</p>
2	<p>「はなのようすをつたえよう」</p> <p>◎花を使った遊びで、喜びを感じるとともに、これまでの成長の記録を振り返り、自分が世話を工夫してきたことで大きな花を咲かせることができたことに気付き、伝え合うことができるようにする。</p> <p>○開花の喜びを絵や文字で表現する。(1時間)</p> <p>○これまでの植物の成長を振り返り、成長の様子や自分の思いを伝え合う。(1時間)</p>	<p>知一②</p> <p>思一④</p>	<p>・自分がこれまで関わってきたことで植物が育ったことに気付いている。 [発]・[カ]</p> <p>・これまでの観察記録を基に、植物の様子や開花の喜びを感じ、自分との関わりとつなげて考え、伝</p>

	<p>【常時活動】</p> <p>○植物の様子について観察したことを記録し、花を使った製作や工作をする。</p>		<p>えている。 [発]・[カ]</p>
3	<p>「たねをとろう」</p> <p>◎自分で育てた植物の種を集めたり、これまでの栽培活動をまとめたりすることで、今まで大切に育てることができた自分自身の成長にも気付くことができるようにする。</p> <p>○採取した種で作品を作ったり、来年の新入生への贈り物にしたりする。(2時間)</p> <p>○これまで記録したものを本にして振り返り、植物を育てることの喜びを友達と共有する。(1時間)</p> <p>【常時活動】</p> <p>○植物の観察をし、採取した種の数記録する。</p>	<p>知-③</p> <p>思-⑤</p> <p>態-③</p>	<p>・種を採取し、命がつながっていくことに気付いている。 [発]・[つ]</p> <p>・植物の成長の様子や、栽培活動を振り返り植物を育てることの喜びを表現している。 [発]・[カ]・[作]</p> <p>・自分と植物との関わりを振り返り、植物を大切に育てていこうとしている。 [発]・[カ]・[つ]</p>

[行]…行動観察 [発]…発言 [カ]…カード [作]…作品 [つ]…つぶやき

## 2 評価の実際について

具体例① 行動・発言・つぶやきから思-②を評価する。

○小単元における評価規準

植物の成長に合わせて、水のやり方や、支柱立て、鉢の置き場所などの世話の仕方を決めている。

○本単元に入るまでの支援

朝の支度を終えた後に、植物の『お世話・観察タイム』の時間を設定し、世話の方法や観察の習慣が身に付くようにした。また、「どうしたらもっと大きくなるかな。」という視点から、児童同士で気付いたことや疑問を伝え合いながら成長の様子を観察し、つぶやきを『みつけたよカード』に記録するようにすることで、気付きの質を高めていった。

○実際の児童の姿と評価及び板書の工夫

あさがおせいちょう だいさくせん。

◎ いままでしてきたこと。

- ・たねをまいた。→やさしく
- ・みずやりをした。→ごはん
- ・ひりょうをあげた。→えいよう

「おおきなあれ、おおきなあれ。」

気付いたこと

は [絵カード] つる [絵カード]

- ・おおきくなた。
- ・いろがこくなた。
- ・ふえた。
- ・ながくなた。
- ・けがはえた。
- ・ふとくなた。

?

- ・つるかねている。
- ・となりのつるとあくしゃしている。
- ・みじかいつる。
- ・ちいさいは、は。

疑問に思ったこと

自分の考え

おおきくなるために!

- ・しちょうをたてる。
- ・みずやり (つちにかける。かわかないようにお。
- ・ひがあたるところにおく。
- ・「いっぱいのがてね。」

○板書の工夫

児童の気づきをイラストに表し、視覚化した。ICT端末の写真や記録を活用し、友達と自分の成長の違いに着目させて疑問点を出し合った。栽培の一連の流れを意識できるように絵カードを使い板書した。

○板書の効果

児童の気づきを視覚化し、イメージを共有しやすかったことで、友達の意見に頷きながら聞く児童が多かった。「短いつる。」「小さい葉っぱ。」など、児童の思った言葉をそのまま使用したことで、「みんなの問題」として捉えることができ、これからの栽培方法と自分との関わりについて考えを深めることができた。

○児童の姿

- A 児：「つるが寝ている。」というような自分なりの表現を用いて成長の様子を伝えることができた。更に、成長の様子だけでなく、「短いつるもあるよ。」「葉っぱが小さいままで、育ってないものもある。」と、自分と友達の成長の差を比べて考えることができた。
- B 児：「つるとつるが握手しちゃう。」と問題点を見つけ、「支柱を立ててつるをまこう。」という発言に加え、「水は、しっかり土にあげよう。」「太陽にしっかり当てると大きくなるよ。」など、工夫して世話をしていこうとする発言が見られ、栽培方法への関心が高まっていた。

・植物の成長に合わせて、水のやり方や、支柱立て、鉢の置き場所などの世話の仕方を決めている。

【思-②】 行・発・つ

植物の変化や成長の段階、友達の植物との成長を比較して、植物の成長や様子に合わせて世話の仕方を考えていた児童を「思考・判断・表現」の観点から「十分満足できる」状態であると評価した。

具体例② 行動・発言・つぶやきから思-③を評価する。

○小单元における評価規準

友達の育てている植物と比べながら成長の変化を伝え合っている。

○本单元に入るまでの支援

葉やつる、つぼみなどそれぞれの部分に視点をおいて観察し、記録をとるようにした。また、野菜の成長の様子を振り返ることができるように、ICT端末に写真を残したり、『みつけたよカード』に成長の様子を記録して児童が確認し合えたりできるようにした。

○実際の児童の姿と評価及び板書の工夫

### ○板書の工夫

児童が撮った実際の写真と、観察した様子を比べながら話し合った。観察する視点ごとに整理して板書をおこなった。

発表児童の名前カードを意見と共に掲示して誰の意見なのか分かるようにした。

### ○板書の効果

実際の写真と比べたり、観察する視点や観察したポイントに分類して表したりすることで、成長の様子や変化を明確に捉えることができ、児童の話し合いが活発になった。また、発表児童の名前カードを掲示することで、他の児童の意見を意識し、より成長の様子を多面的にとらえ、自分の考えを伝えようとする姿が見られた。

### ○児童の姿

C 児：同じ葉や蔓、蕾でも「A君は蛇に見えたと言っていたけど、僕はミミズに見えたよ。」と、自分と友達とでは、成長の様子や、表現の仕方が違うということに気付くことができていた。また、成長を喜び、「もっと、大きくしたい。」と思いをもち、発表することができた。

D 児：実際に朝顔の写真を手掛かりにして、「葉っぱが大きくなった。」と変化に気付くことができていた。また、常時活動では、のびた蔓を支柱に巻き付けたり、「蕾の大きさは、変わるのかな。」と友達と比べ合ったりする姿が見られ、蔓の長さを測って観察した結果を、授業の中で発表することができていた。



・友達の育てている植物と比べながら成長の変化を伝え合っている。

【思-③】発・カ・つ

植物の成長の変化に着目して観察したり、友達の植物との成長の差を比べたりしながら、自分なりの絵や言葉、発言で表現することができた児童を「思考・判断・表現」の観点から「十分満足できる」状態であると評価した。

## 3 実践を終えて

本単元では、植物を継続的に育てる活動の中で生まれた児童の気付きに教師が寄り添い、それを児童どうしが共有することで、植物へ親しみと成長の期待をもって関わろうとしていた。また、栽培の過程で生じた問題や疑問に対して児童が主体的に考え、植物の成長や変化に合わせた働きかけができるように、児童が気付き伝え合えることができる板書の工夫に重点をおいて指導した。

まず、気付きに寄り添うために、植物の成長の変化に着目して観察したことを、写真や絵、文などにまとめたり、友達と気付きを比べて自分の活動に関連付けたりしながら植物に関わる常時活動を行った。また、思考を働かせるために、児童の思考の流れに沿った板書の工夫をした。それに加え、一連の活動の流れを視覚化できるように絵カードでポイントを示した。絵カードを見ることで子供たちの中での思考のポイントが整理され、思考や気付きの質が高まる姿が見られた。そして、気付きの質が高まることで、「もっと、～したい。」「次は、～も育てたい。」などの日常に根差した学習につなげることができていた。

今回の実践を通して、児童の思いや願いに寄り添い、児童どうしの思いを共有するためには、板書の工夫が大きな役割を担っていると感じた。児童の発達の段階に応じて、気付きや願いを板書で視覚化したり、児童どうしの気付きや発見を繋いだりできる板書の工夫を、これからも実践していきたい。

## 指導事例(2)

### 小学校【第5学年】 たなだれ調査隊～地域の農業の未来を考えよう～【4月～3月】

#### ～児童が主体的に取り組む情報収集の工夫～（50時間）

本校区内には、田や畑、果樹園が広がっている。児童の両親や祖父母にも本校の卒業生が多く、農業に従事している方も多い。児童は低学年から地域の農業の体験活動を繰り返し行う。そのような環境で育つ児童は、地域の農業について関心が高い。また、児童は低学年からICT端末に触れ、日常的に使用する中で、その活用能力も身に付けている。本単元では、児童が今まで学んできた農業体験や他教科で得た知識・技能を活用しながら探究活動に取り組み、児童の学びを深めることをねらいとしている。そのために、①地域人材の活用、②目的に合った情報収集、③ICT端末を活用した情報収集の工夫、という3つの観点から、児童が自ら考え主体的に取り組む情報収集を計画し、実践した。

#### 1 児童の実態と教材について

本学級の半数以上の児童は、両親や祖父母、親戚が農業に携わっている。学校の教育活動においても、毎年地域の農業と密接に関わる学習や体験活動を行っている。1・2年生は畑を借りてサツマイモの苗植えや収穫、3年生は地域のイチジク農家や梨農家への見学、4年生はトウモロコシの苗植えや収穫を行っている。また、福島県双葉町立双葉南・北小学校との交流が長年行われ、5年生では宿泊学習での交流や、オンラインで互いの地域を紹介し合う活動を毎年行っている。

本単元ではまず、社会科で日本の産業である米作りを学習したことをきっかけに、地域の農業に目を向けることができるようにする。また、田植えや稲刈りなどの体験活動を行い、興味を高めることができるようにする。そして、地域の農業の実態や問題を調べ、その課題を捉えることができるようにする。そして、それらの課題を解決するために自分たちができることについて考えさせる。このように、自ら課題を発見し、それらを解決しようとする取組を通して、地域への愛着と、自ら課題を解決し、よりよく生きようとする態度を育成する。

#### 2 単元の目標

種足地域の農家の方と関わる活動を通して、受け継がれてきた農業の現在の課題に気づき、地域の農業の存続のためにできることを考え、協働して農業のよさを伝えようとするができる。

#### 3 探究課題

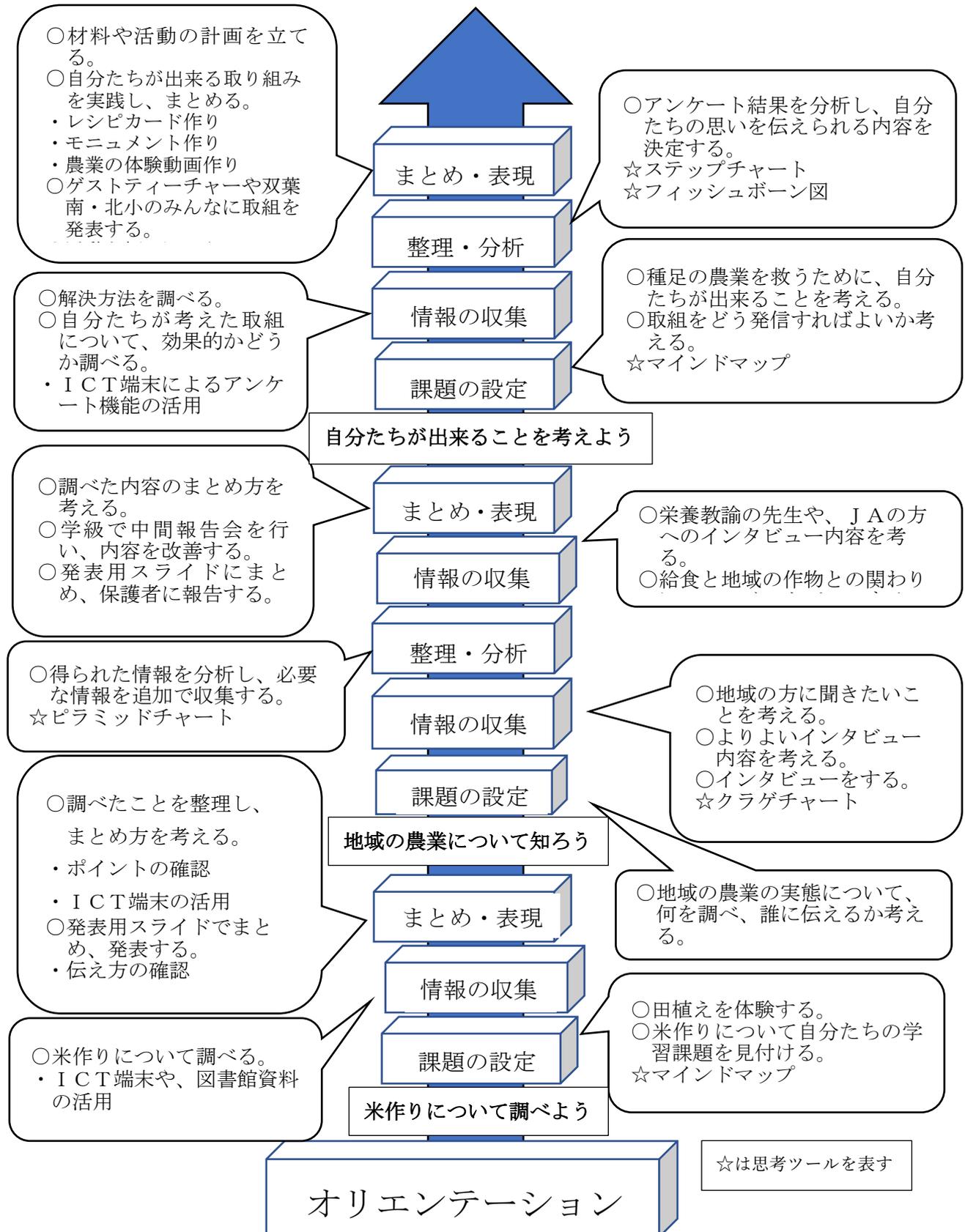
「地域の農業に携わる人々と課題」

#### 4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 地域の農業に携わっている人たちが、それぞれの思いをもち行動することで、地域を支えていることを理解している。 ② 農業の実際や課題について、目的に応じた方法で調査している。 ③ 地域の農業や携わる人々の思いについて理解したことは、探究的に学習してきた成果だと気付いている。	① 地域の農業について考えるという観点から課題を見付け、解決方法を考えている。 ② 地域の農業を知るために必要な情報を、伝える相手や目的に応じた手段で収集している。 ③ 地域の農業について得た情報を比較したり、関連付けたりしながら解決に向けて考えている。 ④ 地域の農業の課題や解決するための方法について考えをまとめ、身近な人に伝わるように工夫して表現している。	① 地域の農業についてより深く知ろうという気持ちをもとうとしている。 ② 友達と協力して地域の農業について調べたり、課題を解決したりする方法を考えようとしている。 ③ 自分と地域のつながりに気づき、課題の解決のために自分たちができることを見付けようとしている。

## 5 活動の流れ

体験したり調べたりする活動を通して、地域の農業の課題に気付き、自分たちの地域の未来について考えようという気持ちを持ち、解決方法を考え発信することができる。

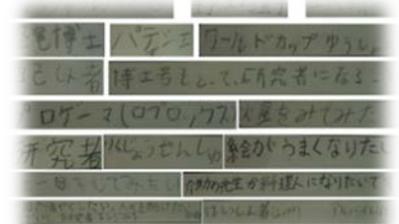


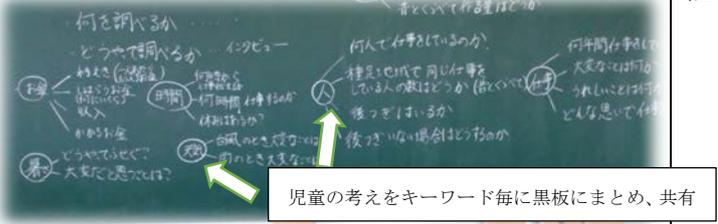
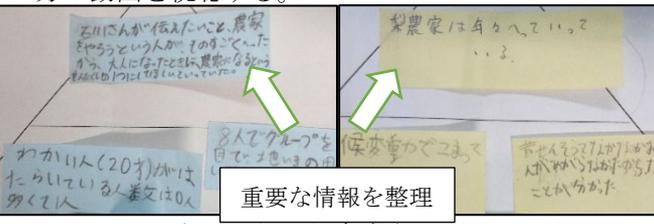
6 単元の指導計画・評価計画（50時間扱い）

○これまでの学習との関連

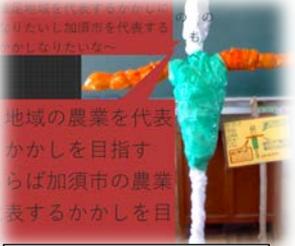
◎探究課題「地域の農業に携わる人々と課題」

- ・5年 米づくりのさかんな地域（社会）
- ・4年 聞き取りメモのくふう（国語）
- ・3年 地域の自然とそれを守る人々（総合）

探究の過程	○学習活動・予想される児童の意識や姿（時間）	○指導上の留意点	評価規準 評価方法
課題の設定	<p>○オリエンテーションをする。 (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間の進め方が分かった。</li> <li>・自分の夢を叶えるために、総合的な学習の時間で力をつけたい。</li> </ul> <p>○田植えを体験する (2)</p> <p><b>課題1：米作りについて調べよう</b></p> <p>○課題を設定する。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の時間に米作りを学習して気になったことを、より深く調べたい。</li> <li>・種足地域は田んぼがたくさんあるので、もっと詳しく知りたい。</li> <li>・田んぼにいる生き物についても調べてみたい。</li> </ul>	<p>○「自分の夢」を書かせ、その実現やよりよい自己の生き方を考える力を身につけるという総合的な学習の時間のねらいや、進め方を確認し、見通しをもつことができるようにする。</p> <p>○田植えの体験や社会科の学習の経験から、自分たちの地域の農業についての課題を設定できるようにする。</p>  <p>○調べたいことについて、ICT端末を活用して思考を共有する。</p>  <p>ICT端末を活用し、意見を共有</p>	態① 発言記述
情報の収集	<p>○米作りについて調べる (4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットで調べよう。</li> <li>・図書館の本を活用しよう。</li> <li>・社会の教科書も活用しよう。</li> <li>・交流している、福島県とも比較してみよう。</li> </ul>	<p>○ICT端末や図書を活用して情報収集をする。その際、地域の図書館と連携して教室に米作りの本を置き、目的に合った情報の収集が出来るようにする。</p>	知② 発言記述
表現まとめ	<p>○調べたことを整理し、どのようにまとめれば良いか考える。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表用スライドでまとめるとまとめやすい。</li> <li>・画像があるとわかりやすい。</li> <li>・表やグラフで表されているとわかりやすい。</li> </ul> <p>○班ごとにスライドでまとめ、学級内で発表する。(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・米作りについてさらに理解できた。地域の米作りや農業についても知りたい。</li> <li>・自分たちの地域の農業は、調べたことと同じようになっているのだろうか。</li> <li>・米づくりだけでなく、他の農作物についても知りたい。</li> <li>・まとめ方を工夫できたので、今後の活動でも生かしたい。</li> </ul>	<p>○全体でスライドに内容をまとめる際のポイントを確認する。</p>  <p>調べたテーマ 米農家の仕事時間 (分かったこと) 時期によって開始時間、休日の長さが変わる</p>  <p>調べたテーマ 【米作りと害虫(えきむし)】 分かったこと 「害虫が米に害を及ぼさないようにする工夫：1. 害虫の被害が大きくなるように被害の時期をずらす。2. 稲刈の時期に合った除草剤を散布する。3. 稲刈で水田まわりの草刈りを行う。4. 水田の除草剤を散布を行う。」</p> <p>図でわかりやすく</p> <p>写真で見やすく</p> <p>○ICT端末を用いて発表用スライドを作成する。</p> <p>○地域を意識し、次時へつながる振り返りができるようにする。</p> 	態② 発言記述  思④ 作成物記述

課題2：地域の農業について知ろう		思① 発言記述
課題の 設定	<p>○地域の主要な農業について、何を調べ、誰に伝えるか考える。</p> <p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イチジク、梨農家を見学した。</li> <li>・種足地域の農業を、お家の人にも知ってもらいたい。</li> </ul>	<p>○児童へのアンケートやこれまでの学習から、自分たちの地域を想起させ、調べたい地域の農業を決めることができるようにする。</p> <p>○地域の農業の実態を、共に地域に暮らす保護者に伝えたいという思いをもつことができるようにする。</p>
情報の 収集	<p>○地域の方に聞きたいことや、聞き方を出し合う。(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビューをする。</li> <li>・手紙で質問する。</li> <li>・アンケートをする。</li> </ul> <p>○各班で出された内容を共有し、自分たちの質問内容に取り入れたり、聞き方を工夫したりしてよりよいものになるようにする。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明確に答えられるような質問にしよう。</li> </ul> <p>○地域で農業をされている方にインタビューを行う。(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の農業について、課題が分かった。</li> <li>・農家の方の工夫や苦労が分かった。</li> <li>・今まで知らなかった地域の農業の様子が分かった。</li> </ul>	<p>○班ごとに考えた質問内容を黒板で共有し、よりよい質問内容になるよう考える。</p>  <p>児童の考えをキーワード毎に黒板にまとめ、共有</p> <p>○目的に応じた質問の仕方を考えられるようにする。</p> 
整理 分析	<p>○調べて分かった内容を分析する。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図で分けて考える。</li> <li>・ピラミッドチャートを使うと、意見を整理しやすい。</li> </ul> <p>○調べたことを整理・分析し、報告の準備に向けてさらに必要な情報が無いか分析する。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・種足地域でとれたお米は、どこで食べられているのだろうか。</li> <li>・自分たちが食べている給食は、地域でとれたお米や野菜を使っているかどうかを調べたい。</li> </ul>	<p>○意見をまとめる方法として、ピラミッドチャートの使い方の動画を視聴する。</p>  <p>○重要な情報を整理</p>  <p>重要な情報を整理</p> <p>○インタビューやアンケート内容を、ピラミッドチャートを用いて整理する。</p>
情報の 収集	<p>○インタビュー内容を考える(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・給食に、地域の米や野菜は使われているだろうか。</li> <li>・イチジク、梨など果物はどうか。</li> </ul> <p>○栄養士の先生や JA の方を招き、自分たちの給食と、地域の食のつながりについて情報を収集する。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の米や野菜が給食に使われているんだ。</li> </ul>	<p>○自分たちの調べた内容と、給食との関わりについて調べられるようにする。</p> 

	<p>○稲刈り体験を行う。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・このお米のように、種足地域でとれたお米が給食で出ているんだ。</li> <li>・大変だけれど、収穫できるとうれしいな。</li> </ul>		
<p>表現 まとめ</p>	<p>○学級で中間報告会を行う。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分かり易い表現に変えよう。</li> </ul>  <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">学級で中間報告会</p> <p>○保護者に向けて調査報告会を行う。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの地域の課題を詳しく知ることができた。</li> <li>・種足地域の農業には、課題が多くあるんだ。</li> <li>・自分たちで、種足地域の農業のために何かできないだろうか。</li> </ul>	<p>○調べた内容ごとに学級で報告し合い、良かった点や改善点を共有し、より良い内容に改善させることができるようにする。</p>  <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">アドバイスをもらい、班毎ごとに改善</p> <p>○保護者から報告内容について意見をもらい、自分たちが伝えたいことが伝わったか、また地域の農業の課題について、理解を深めてもらえたかを振り返ることができるようにする。</p>	<p>態① 発言 記述</p>
<p><b>課題3：自分たちが出来ることを考えよう</b></p> <p>課題の 設定</p>	<p>○種足の農業を救うために自分たちにできることを考える。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちで農作物を作る体験ができないかな。</li> <li>・地域の野菜を使って食事を作りたい。</li> <li>・地域の人に取り組を発信したい。</li> <li>・長年交流している双葉南・北小学校のみんなにも見てもらいたい。</li> </ul>	<p>○地域の課題に対しての思いを共有し、課題を解決したいという意欲を高めることができるようにする。</p> <p>○思考ツールを用いて知りたい情報を整理し、活動内容を明確にする。</p>  <p>○地域の農家、双葉南・北小学校との交流を想起する。</p>	<p>態③ 発言 記述</p>
<p>情報の 収集</p>	<p>○取り組む内容を調べる。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に住んでいる方やお家の人に聞いてみたい。</li> <li>・かかしを作ったら鳥害を減らせられないだろうか</li> <li>・地域の方のお手伝いをすることはできないかな。</li> <li>・地域の野菜や果物を買ってもらえるような取組はないだろうか。</li> </ul>	<p>○インターネットや保護者アンケートを通し、情報を収集する。</p> <p>○ICT端末を活用し、アンケートを作成する。</p> 	<p>知② 発言 記述</p>

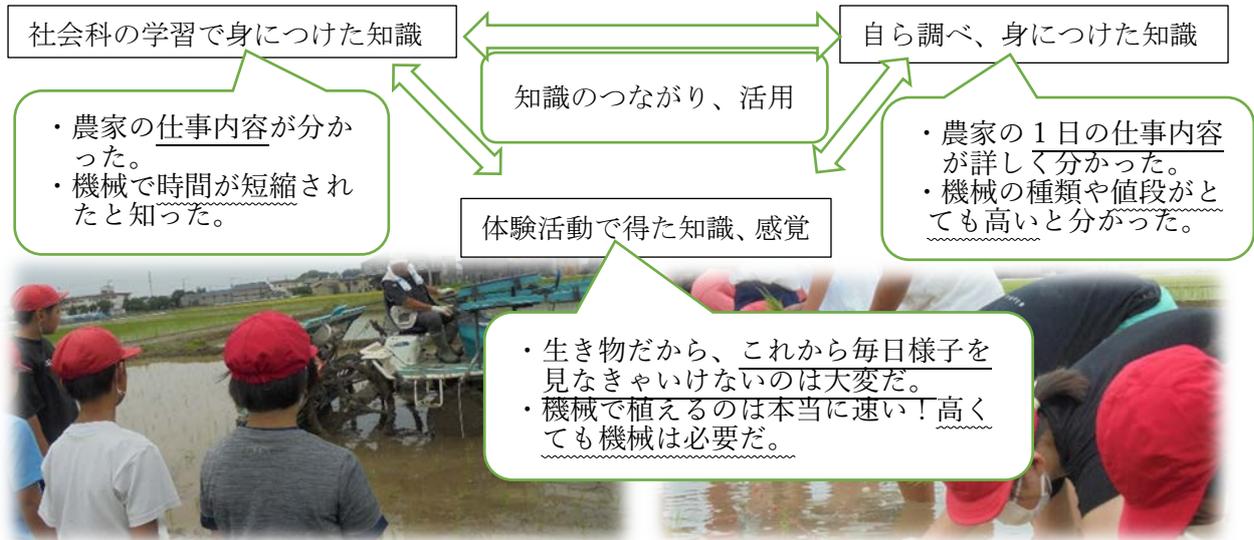
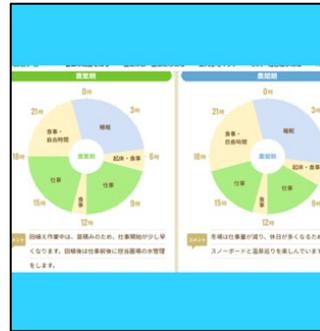
<p>整理 分析</p>	<p>○アンケート結果を分析し、取り組み内容を決定する。(1) ○材料や活動の計画を立てる。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モニュメントを作って地域の農業を盛り上げたい。</li> <li>・地域の野菜を使ったレシピカードを作って地域に配りたい。</li> <li>・農業体験の動画を撮影して、発表したい。</li> </ul>	<p>○効果的で、実現可能な取組を考えられるようにする。 ○ステップチャートで計画を整理する。</p>  <p>内容は実現可能か確認</p>	<p>思③ 発言 記述</p>
<p>表現 まとめ</p>	<p>○自分たちが出来る取り組みを 実践し、まとめて発信する (8)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レシピカードをもとに、実際に 作ってみよう</li> <li>・モニュメントを作り、学校に設 置しよう。</li> <li>・農業体験の動画を作り、色々 な人に見てもらおう。</li> </ul> <p>○ゲストティーチャーを招き、収 穫したお米と一緒に食べると ともに、地域の農業について自 分たちの取組を発表する。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの取組が効果的では ないか、と言っていただけだ。</li> <li>・自分たちが地域の農業につ いて考え続けていくことが大切 だと思った。</li> </ul> <p>○双葉南・北小学校の児童へオン ラインで取り組みを発表する。 (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・種足の野菜でレシピを作って みたいと言ってもらえた。</li> <li>・これまでの活動を生かして、わ かりやすく発表できた。</li> <li>・双葉町の農業についても知り たい。</li> </ul> <p>○これまでの活動を振り返る。 (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の未来のために提案がで きて良かった。</li> <li>・種足地域の農業について、今後 も考えていきたい。</li> </ul>	 <p>レシピカード作り</p>  <p>モニュメント作り</p>  <p>農業体験動画の作成</p>  <p>ゲストティーチャーへの発表</p>  <p>双葉南・北小学校への発表 (オンライン)</p> <p>○学習を通して地域の農業についての考えがどう変わったか振り返ることができるようにする。 ○自分の将来に向けて、学習内容をどのように生かしていきたいか振り返ることができるようにする。</p>	<p>思④ 作成物 発言 記述</p> <p>知③ 発言 記述</p>

## 7 活動の実際

### (1) 地域人材の活用

本単元では地域の方に、より具体的な地域の実情をインタビューすることで、これまで見えてこなかった農家の苦労や課題を、実感をもって理解できるようにした。

また、社会科の「米作りの盛んな地域」の単元を入れ替えることで、児童は本単元の前に、米作りについての工夫や課題について知識を得た。その後に田植えや調べ学習を行うことで、児童は学んだ知識と実際の農業の結び付きが深まった。



#### ・田植え体験での質問（抜粋）

「米作りでICT機器を使った工夫はありますか。」

「米作りは後継者の不足が課題だと学習しましたが、種足地域の米作り農家はどうですか。」

「機械で米作りをするようになって、どのくらい作業は楽になりましたか。」

「埼玉県では、どのような品種のお米が作られていますか」

これらの質問は、いずれも社会科の学習で習得した知識を活用したものである。地域人材を適切な場面で活用することにより、学習内容がより身近な課題であることを捉えさせた。

### (2) 目的に合った情報収集

小単元1において、インターネットでの調べ学習では、情報過多により、知りたい情報を得られなかったり、集めた情報の信憑性に課題が見られたりした。そこで、必要な情報を得る方法を話し合わせ、地域の図書館から米作りについての図書を借りた。得られた情報はワークシートにメモし、必要に応じて見返したり、共有したりできるようにした。また、小単元2の学習では、児童は内容を分析する中で、自分たちとの関わりを調べたいと考えた。そこで、栄養教諭やJAの方をゲストティーチャーとして招き、給食と地域の作物の関わりについて話を聞いたり、インタビューを行ったりして情報を収集した。



自分たちと地域の農作物についてのつながりを知りたいな。



給食に種足地域のお米や野菜が使われているんだ！

整理、分析し、必要な情報に気付く



給食と地域の作物の関わりについて情報収集

### (3) ICT端末を用いた情報の収集

米づくりや地域の農業について調べる学習では、ICT端末を活用した。また、体験活動や創作活動では画像や動画をICT端末で収集した。収集した情報は、共有ファイルに保存し、児童間で共有できるようにした。さらに、表現・まとめの場面ではそれらの収集した情報を活用し、発表シートの作成を行った。



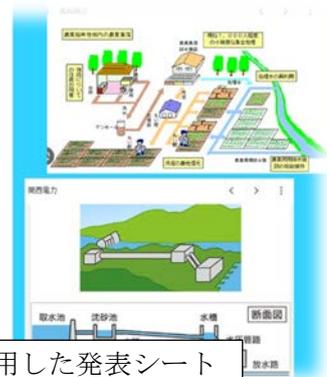
ICT端末を活用した調べ学習

調べたテーマ

「用水路の仕組み」

分かったこと

- ・農作物の育成に必要な河川、ため池などの湖沼や井戸から田畑に提供する。
- ・木の枝のように幅の広いものから狭いものへと枝分かれていき、最後には水田まで通じている。
- ・水が少ない時や流れが変わると引けない、せきを作るといつも水を引



収集した情報を活用した発表シート

## ⑤-1 農業体験の様子



## ⑤取組の様子



児童は、実践内容を情報端末に保存し、発表シート作成の際に活用した。(上は児童が撮影した動画や写真)

## 8 成果と課題

- 地域の農業体験や社会科で習得した知識を本単元で活用することで、学習内容の理解がより一層深まるとともに、課題解決のためにより多く学びたいという意欲の高まりが見られた。
- ICT端末の活用により、情報収集、整理・分析、発表シートの作成が容易に出来た。また、保護者や地域の方へのアンケートも、児童自身で作成し、情報収集を行うことが出来た。
- 情報端末の活用については、技能の個人差が大きく、まとめ作業は一部の児童に負担が偏ることがあった。
- 情報の正しい扱い方や効果的な表現方法についての知識や技能が十分でない様子が見られた。情報モラルやICT機器を用いた表現方法について、事前の知識の習得が必要であると感じた。

## 指導事例(3)

# 小学校【第6学年】バラマイスターを目指そう！【4～3月】

～実践体験型 PBL で、自らの可能性を発揮させるまとめ・表現の工夫～（70時間）

伊奈町の花であるバラをテーマに持続可能なバラ栽培に取り組み「小針北小バラまつり」の開催を目指す、実践体験型の探究的な学習活動を展開した。校内バラ園の維持を通して、児童は自然を大切に作る気持ちを育むとともに、持続可能な社会との関わりについて理解し、バラを生かしたまちづくりについて考えた。特に「まとめ・表現」の場面において、自分にできることを考えて協働的に活動することができた。そして、児童は SDGs やアントレプレナーシップ教育、さらにはまちづくりへの参画等学びを深めた。

### 1 児童の実態と教材について

本校は埼玉県内で最大級のバラ園として知られる伊奈町の町制施行記念公園の近隣に位置しており、バラは地域の身近な自然として親しまれている。しかし、多くの児童が身近な草花の名前も知らず、身近な自然への関心を高めたり、自然に浸る経験を積んだりすることに課題があるといえる。そこで、伊奈町の花であるバラの庭園を校内に設置した。樹木であるバラは寿命が30年以上あり、近年の猛暑にも耐えられ、四季咲き性の品種は春から秋にかけて何度も開花を見ることができ。よってバラの栽培は、地域の特色を生かした児童の身近な自然に浸る経験を積ませる教材として有効であると考え。そして、まちづくりへの参画やバラ園の運営維持のための「小針北小バラまつり」の開催を目指して、持続可能なバラ栽培の実現をテーマに実践体験型 PBL に取り組ませる本実践を設定した。

### 2 単元目標

伊奈町の花であるバラの栽培に取り組む活動を通して、地域の発展と持続可能な社会との関わりについて理解し、「小針北小バラまつり」の開催を目指して自分にできることを考え、保護者や地域の方、5年生にバラ園運営の趣旨やバラ栽培のよさを伝えて、積極的に社会に参画しようとする態度を養うことができるようにする。

### 3 探究課題

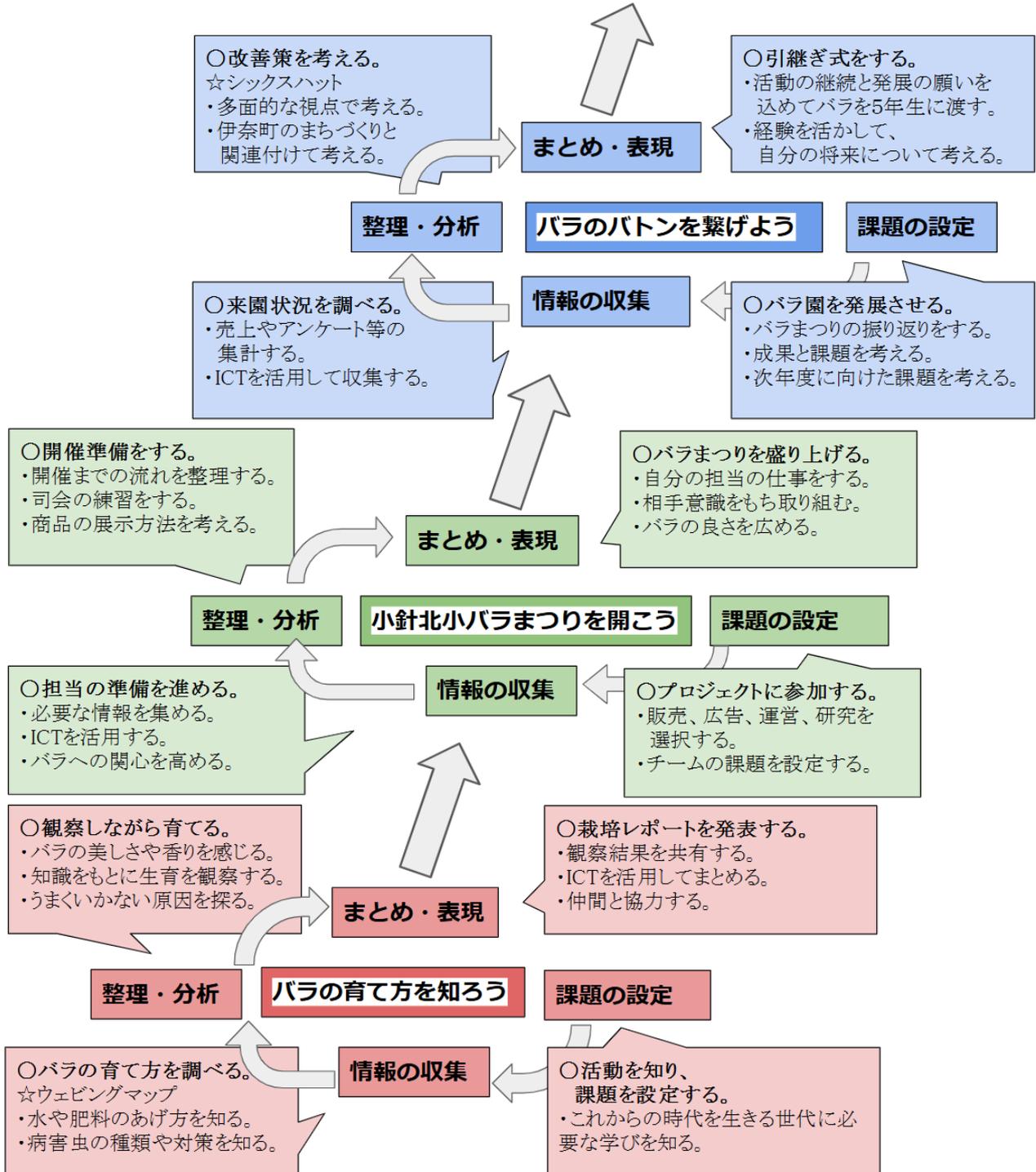
「持続可能なバラ栽培の実現」

### 4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① バラは、伊奈町の花であることを理解している。 ② 調査活動を、目的や対象に応じた適切さで実施している。 ③ まちづくりへの参画に関する理解は持続可能なバラ栽培を実現するために解決すべき課題について探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。	① バラ栽培を通して感じた関心をもとに課題をつくり解決の見通しをもっている。 ② 課題の解決に必要な情報を、手段を選択して多様に収集し、種類に合わせて蓄積している。 ③ 課題解決に向けて観点に合わせて情報を整理し考えている。 ④ 相手や目的に応じて、分かりやすく表現している。	① 課題解決に向け、自分のよさに気付き、探究活動に進んで取り組もうとしている。 ② 自分と違う意見や考えのよさを生かしながら協働して学び合おうとしている。 ③ 「小針北小バラまつり」の開催に向けて自分にできることを見付けようとしている。

## 5 活動の流れ

バラの栽培と「小針北小バラまつり」の開催に取り組む活動を通して、積極的に社会に参画しようとする態度をもって自分の役割について考え、学んだことを生かそうとすることができる。



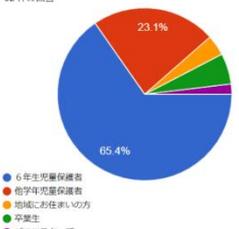
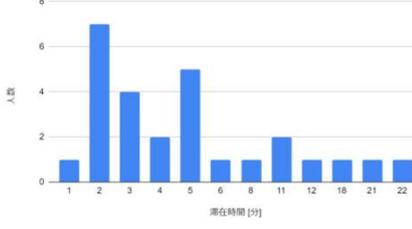
6 単元の指導計画・評価計画（70時間扱い）

○これまでの学習との関連

- ・ 5年 小針北小学校を紹介しよう（総合）
- ・ 4年 旅行プランナーになろう（総合）
- ・ 3年 伊奈町のよいとこ調べ（総合）

◎探究課題「持続可能なバラ栽培の実現」

探究の過程	○学習活動 ・予想される児童の意識や姿（時間）	○指導上の留意点	評価規準 評価方法
課題の設定	<p><b>「バラの育て方を知ろう」</b></p> <p>○観光地の特色を知ろう。(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊奈町の特色って？</li> </ul> <p>○活動を知り課題を設定する。(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何をしたらいいかな？</li> </ul>	<p>○地域の発展に必要な要素を考えさせる。</p> <p>○趣意説明をして伊奈町のバラを生かした取り組みや、これからの時代を生きる世代に必要な学びを伝え、めあてを明確にさせる。</p>	<p>知① 思① 発 言 行 動</p>
情報の収集	<p>○バラの育て方を調べる。(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水や肥料のあげ方は？</li> <li>・バラの種類や育ち方は？</li> <li>・病害虫の種類と対策は？</li> <li>・バラの剪定や管理方法は？</li> </ul>	<p>○ウェビングマップで情報を整理させる。</p> 	<p>思② 態① 発 言 行 動 記 述</p>
整理分析	<p>○観察しながら育てる。(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・天気で土の乾きが違う。</li> <li>・花がきれいでいい香り。</li> <li>・どうして病気になったの？</li> <li>・枝のどこを切ればいい？</li> </ul>	<p>○調べた知識をもとに、生育を観察させる。</p> 	<p>知② 思③ 発 言 行 動</p>
まとめ表現	<p>○レポートを発表する。(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調べた通りになった。</li> <li>・初めて知った。</li> <li>・新しい疑問が生まれた。</li> <li>・友達と協力できた。</li> </ul>	<p>○結果を共有し、互いの良さを感じさせる。</p> 	<p>思④ 態② 発 言 行 動</p>
課題の設定	<p><b>「小針北小バラまつりを開こう」</b></p> <p>○活動を知り、プロジェクトに参加する。(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・販売する商品を作ろう。</li> <li>・CMを作って紹介しよう。</li> <li>・会場を運営しよう。</li> <li>・課題解決の研究をしよう。</li> </ul>	<p>○自らの課題を見つけられるようにする。</p> 	<p>知① 思① 発 言 行 動</p>
情報の収集	<p>○担当の準備を進める。(6)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バラで商品を作るには？</li> <li>・CM動画を作るには？</li> <li>・バラのクイズを作るなら？</li> <li>・プレゼン資料を作るなら？</li> </ul>	<p>○必要な情報を集め、検証を繰り返させる。</p> 	<p>知② 思② 発 言 行 動 記 述</p>

整理分析	<p>○開催準備をする。(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看板を作ろう。</li> <li>・司会の練習をしよう。</li> <li>・商品はどう並べよう。</li> <li>・発表の練習をしよう。</li> </ul>	<p>○練習や反省を行い開催の流れを整理させる。</p> 	<p>思③ 態② 発言 行動</p>
まとめ表現	<p>○バラまつりを開催する。(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・声を出して宣伝しよう。</li> <li>・楽しんでもらおう。</li> <li>・アンケートを配ろう。</li> <li>・来場者に活動を伝えよう。</li> </ul>	<p>○相手意識をもって活動に取り組みさせる。</p> 	<p>思④ 態③ 発言 行動</p>
課題の設定	<p><b>バラのバトンを繋げよう</b></p> <p>○バラまつりを振り返ろう。(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たくさん販売ができた。</li> <li>・香りも楽しんでもらえた。</li> <li>・渋滞が発生してしまった。</li> <li>・すらすら発表できた。</li> <li>・次年度に向けた課題は？</li> </ul>	<p>○感謝の気持ちをもって、振り返りをさせる。</p> 	<p>知① 思① 発言 行動</p>
情報の収集	<p>○来場状況を調べる。(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よく売れた時間帯は？</li> <li>・アンケートの結果は？</li> <li>・滞在時間は？</li> <li>・何学年の保護者？</li> </ul>	<p>○調査結果から客観的な評価をさせる。</p> <p>ご来場者様情報 52件の回答</p> <p>滞在時間別の人数分布</p>  	<p>知② 思② 発言 行動 記述</p>
整理分析	<p>○改善策を考える。(6)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと売れるためには？</li> <li>・喜んでもらうためには？</li> <li>・バラ園が発展するために？</li> <li>・伊奈町のPRと比較しよう。</li> </ul>	<p>○思考ツール、シックスハットで、改善策について多面的な視点をもたせて検討することで、チームの思考が偏らないようにさせる。</p> <p>○持続可能な環境との関わりについて考えさせ、伊奈町のバラを生かしたまちづくりと関連付けて考えられるようにさせる。</p>	<p>思③ 態① 発言 記述</p>
まとめ表現	<p>○引継ぎ式をする。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然への興味が高まった。</li> <li>・来年もバラが咲いてね。</li> <li>・商売の経験ができた。</li> <li>・まちづくりを知った。</li> </ul>	<p>○活動の継続と発展の願いを伝えさせる。</p> 	<p>思④ 態② 発言 行動</p>
まとめ表現	<p>○町の未来を考える。(10)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の夢はなんだろう。</li> <li>・自分がまちづくりに関わること何だろう</li> </ul>	<p>○伊奈町から未来へと目を向けて、地域の発展や、自分の将来について考えさせる。</p>	<p>知③ 態③ 発言</p>

## 7 活動の実際

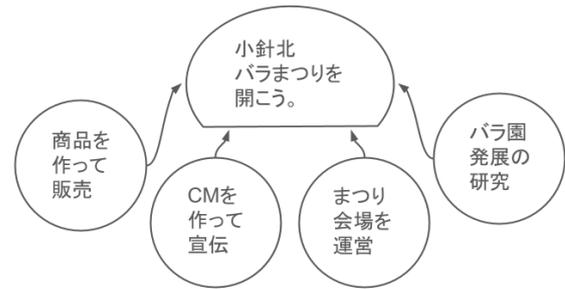
### (1) 実践体験型 PBL で、自らの可能性を發揮させるまとめ・表現の工夫

本実践は、まとめ・表現の場面で「小針北小バラまつり」を開催する実践体験型 PBL に取り組むことで、SDGs やアントレプレナーシップ教育、まちづくりへの参画等学びを深められるようにするものである。

バラの栽培には、剪定や病害虫対策といった栽培に関する知識・技能を身に付けるだけでなく、肥料や薬剤といったバラの維持費の工面などが課題となる。そこで児童は校内のバラ園を守っていけるよう、育てたバラを披露したり、商品を販売したりする「小針北小バラまつり」の開催を目指し、自分にできることを考え、プロジェクトチーム（販売・宣伝・運営・研究）に別れて計画と準備を進めた。

販売チームは、採集したバラを使ってどのような商品が作れるか考え、デザインを工夫しながらバラのポプリやキーホルダー、ハーバリウムの制作を行った。宣伝チームは、多くの人に来場してもらえるよう、視聴ターゲットを考えて開催を PR する動画を撮影・編集し、特設サイトにて保護者向けに限定公開した。運営チームは、来場者に楽しんでもらえるよう、会場の案内やバラに関わるクイズやイベントを企画し、練習や反省を行い開催までの流れを整理した。研究チームは、バラ園の発展に向けた提案や発信を行い、栽培支援のプログラミングや土壌改良の堆肥づくりを進めたり、来場者に紹介する一連の取組についてまとめたプレゼンテーションを作成したりした。

児童は活動の中で、協働的に話し合いや意見交換を行い、収集した情報を比較したり、分類したり、関連付けたりして考えることに繋げていた。そして、異なる視点からの意見交換が行われることで、互いの良さや可能性を尊重し合う態度が見られた。当日は「小針北小バラまつり」を実施した2時間枠の学校公開で600名を超える来場者が訪れ、児童は自分たちが育てた美しい秋バラを披露することができた。また、来場者にアンケートを配ったり、来場数や売れ行きの推移を調査したりした。商品は完売し、売り上げは材料費や校内バラ園の維持費にすることができた。



## (2) まとめ・表現を充実させる外部講師との連携

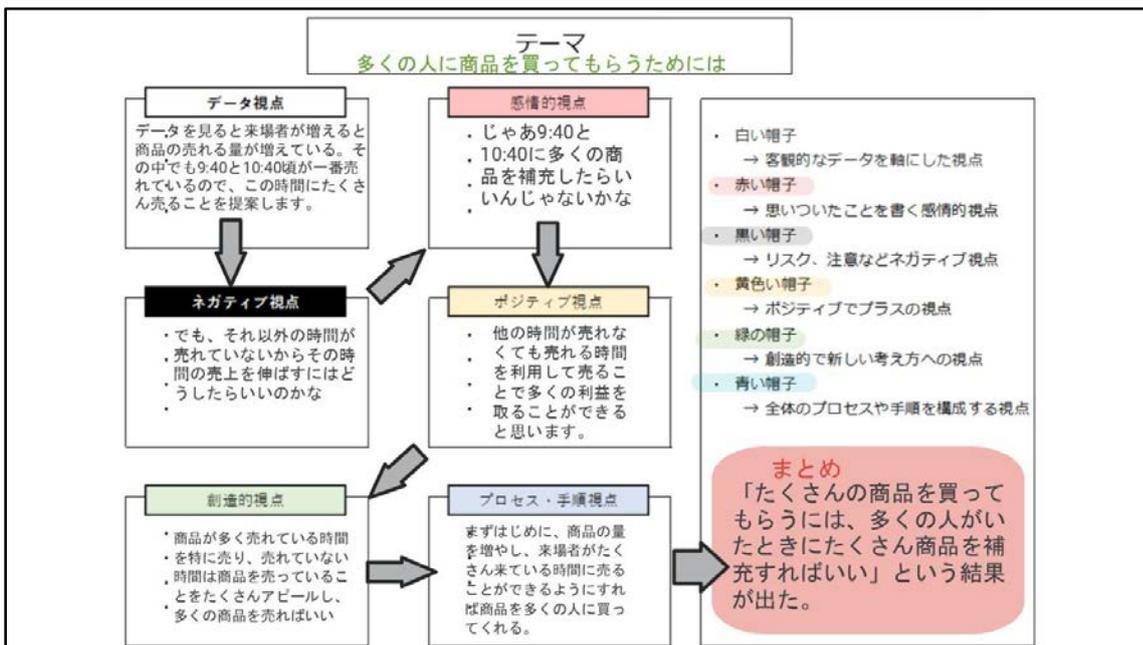
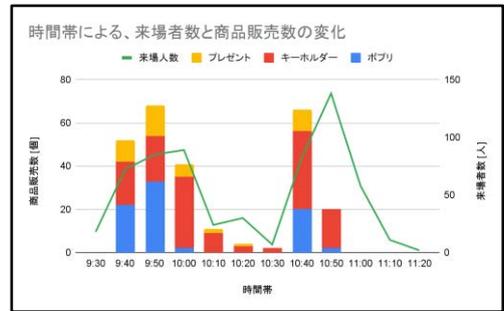
バラの栽培や商品の開発は、専門的な知識が必要である。そこで、バラ園のバラの管理をされているバラマスターズや、伊奈町商工会の会長をゲストティーチャーに招いた。

バラマスターズからは、施肥のタイミングや鉢増しの方法について実演を交えながら教わり、伊奈町商工会会長からは、商品開発に必要なコンセプトやターゲットの捉え方を教わった。どちらも児童からの質問にあたたかく丁寧に答えていただき、激励を受けた児童は活動への自信や意欲を高めていた。そして、児童同士で解決できないことも、専門家の方との交流を通じて学んだことを手掛かりに考えを深め、自らの課題の解決に生かしていた。



## (3) バラのパトンを繋げるためのまとめ・表現

5年生に活動を引き継げるように「小針北バラまつり」の後、次年度に向けた売上やアンケート等の集計を行い、整理・分析した結果から改善策を考えた。その際、下図の様に思考ツール「シックスハット」で、改善策について多面的な視点をもたせて検討することで、チームの思考が偏らないようにさせた。また、持続可能な環境との関わりについて考えさせ、伊奈町のバラを生かしたまちづくりと関連付けて考えられるようにさせた。右図は時間帯による来場者数と商品販売数の推移である。「小針北小バラまつり」を実施した2時間枠の学校公開に合わせて来場者数や売上が変化していることが分かる。それに対して、児童は班ごとにテーマを考えて改善策を検討し、自分たちの結論を導き出すことができた。



思考ツール「シックスハット」による、まとめ・表現

#### (4) 継続的なバラ栽培の実現に向けた取り組み

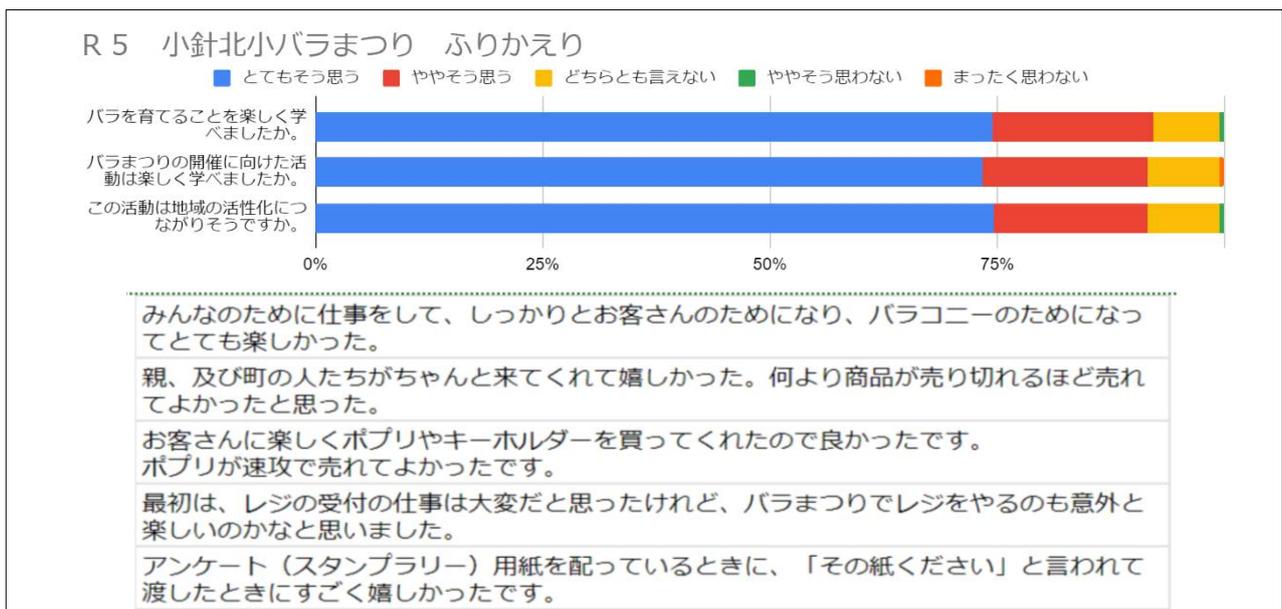
長期的なバラの栽培には、栽培に掛かる負担感をなるべく減らすことが重要である。特に猛暑の長期休業中の鉢バラの水切れは厳禁であるため、校内バラ園では通年で市販の自動灌水機を稼働させている。時間や頻度を設定し、水道からホースとチューブを分岐させることで、すべての鉢の灌水を行う。児童は担当する鉢に対して、施肥や病害虫の観察等を兼ねて週に一度のたっぷりの水やりで十分である。水やりを忘れがちな児童も安心して活動に取り組んでいる。水やりの際には、商品として使うバラの花や、古くなった花殻を摘ませることで、株の体力の維持も図ることができる。



#### 8 成果と課題

下図は児童の振り返りアンケートの結果（抜粋）である。グラフから児童の約9割がバラの栽培や「小針北小バラまつり」の取組を楽しみ、地域の活性化に繋がるものだと捉えていた。児童のアンケートの記述から、児童は力を合わせて取り組むことの大切さや地域社会に関わる喜びなどを実感することができたことも分かった。来場者アンケートからも、約9割の方から「小針北バラまつり」が満足・概ね満足であり、地域の活性化に繋がるものであると回答を得られていた。また、プレゼンコンテスト（スタートアップ Jr. アワード 2023）では、小学校の部二次審査（応募総数 1737 名、527 組中 20 組）へ進出することができた。さらに伊奈町の地域紙『広報いな』『かたらい』に掲載されたほか、ばら制定都市会議に本校児童が参加し、植樹式に参加したり壇上で活動を全国に向けて発表したりする機会にも恵まれた。そして授業改善リーフ第3集『P・I・A シート』で紹介していただき、児童の一連の活動は様々な形で伊奈町のまちづくりに参画し、地域への貢献に繋がったと考える。

これらの結果から、児童が自然に直接関わりながら互いのよさを生かし、自然に対する豊かな感受性や生命を尊重する精神、環境に対する関心を培いながら、SDGs やアントレプレナーシップ教育、さらにはまちづくりへの参画等学びを深めることができたと考える。しかし、協働的に学ぶことに対して、周囲との関わりに困難さを感じる児童もいた。自然との関わりを増やしてバラの世話に特化させるなど、それぞれの個性を生かし、柔軟に児童の主体的に学ぶ姿勢を伸ばす仕組みをつくることが今後の課題である。



R5 小針北小バラまつり ふりかえり アンケート結果



植樹式に参加



授業改善リーフ第3巻	
P・I・A シート	
～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 実践事例～	
小学校 総合的な学習の時間 単元 ① 観察	
校種・学年	小学校・6年生 総合的な学習の時間
発表名	「○○のバラまつり」を創ろう
発表内容	<p>【バラをいそよそと育てよう】というテーマで、児童一人一人が課題を設定して探究学習を行った。バラをいそよそと育てようというテーマで、児童一人一人が課題を設定して探究学習を行った。バラをいそよそと育てようというテーマで、児童一人一人が課題を設定して探究学習を行った。</p>
発表の目標	<p>(1) 探究学習の意義を理解し、自分の課題を設定し、探究学習を行うこと。探究学習の意義を理解し、自分の課題を設定し、探究学習を行うこと。</p>
本時の流れ	<p>①○○のバラまつりについて調査した結果を整理・分析し、発表の準備について考え、分りやすく整理する。②○○のバラまつりについて調査した結果を整理・分析し、発表の準備について考え、分りやすく整理する。</p>
本時の評価	<p>探究学習を整理・分析し、発表の準備に向けての準備について考え、分りやすく整理している。【思考・判断】</p>
発表の観察・見どころ	



ばら制定都市会議に参加

本実践は、多くの方の支援や地域の協力により実現することができた。児童も伊奈町の花のバラという、地域の特徴を生かしたテーマの下、探究学習を深めたことによって、地域のために自分ができることは何かという視点をもって、よりよい課題の解決に向けて行動していくことができた。

地域連携の輪はさらに広がり、地域の区長さんから協力をいただき、地区のまつりに出展し、児童の考えた「小針北小バラまつり」のキャラクター投票や活動内容の宣伝を行った。また、雑木林のある公園や乗馬クラブから協力をいただき、校内の雑草や腐葉土、馬糞から堆肥を作ったりする活動等新たなプロジェクトが進行している。このように「持続可能なバラ栽培の実現」は令和6年度も継続されている。

今後もバラの栽培をはじめ、総合的な学習の時間やその他の教育活動の中で児童の身近な自然に浸る時間を確保し、自然に対する豊かな感受性や生命を尊重する精神を培うとともに、環境に対する関心を高めたい。そして、予測困難な時代に、たくましく未来を生きるために、児童一人一人が社会の変化に受け身で対応するのではなく、主体的に向き合い関わっていく姿勢をもてるよう、学校や地域が連携し、大人も本気になって課題に向き合う姿を児童に見せていきたい。



地区のまつりに出展



堆肥づくりの取組み

## 2 第33回生活科・総合的な学習の時間教育研究発表会報告

(1) 期 日 令和6年7月30日(火)

(2) 方 法 オンライン開催

(3) 指導者 共栄大学教育学部 教授

小川 聖子 先生

(4) 研究発表並びに研究協議

司会者：小野 玲美 (さいたま・南浦和小)

高野 すみ (川口・辻小)

菊地佑季乃 (深谷・深谷小)

記録者：高柳 太一 (白岡・白岡東小)

青木 一真 (上里・長幡小)

①生活科における小学校連携の実践

～内容(3)まちたんけんの実践を通して～

提案者 戸田市立芦原小学校 若林 広泰

②総合的な学習の時間を中核としたカリキュラム・デザイン

～各教科等の資質・能力の活用・発揮と総合的な学習の時間の  
学習対象の利用・促進による教科等横断的な学びの視点から～

提案者 久喜市立久喜小学校 林 大輔

③総合的な学習の時間を中核としたカリキュラムの工夫・改善

～各教科等を貫き、全ての学習の基盤となる言語能力の育成と活用～

提案者 熊谷市立三尻中学校 吉田 和貴

# 生活科における小学校間連携の実践 ～内容（3）まちたんけんの実践を通して～

戸田市立芦原小学校 若林 広泰

## 1 主題設定の理由

生活科では、直接対象と関わる体験活動が重視されるとともに、それを伝えたり、交流したり、振り返ったりする表現活動が適切に位置付けられていることが重要である。そうした学習活動が連続的、発展的に繰り返されることにより、期待される児童の姿が繰り返し表れ、積み重なっていく。こうした一連の学習活動を通して、資質・能力は確かになっていく。

本学級の児童は、生活科におけるアンケート結果から生活科が好きと回答した児童が98%いる。また、生活科の学習は他教科に役立つかという質問では90%の児童が「そう思う」と回答しており、生活科に対して好感をもっている児童が多いことが分かる。

一方で「生活科で学習したことをみんなに伝えられる」では、12%の児童が「あまりそう思わない」と回答しており、他者に自分の思いや身近な出来事を伝えることにおいては、今後の課題である。そこで、町探検で調べたことや発見したことなどを保護者や同じ中学校区の小学校2年生に伝える活動を通して、相手のことを想像したり、伝えたいことを伝えたりすることができ、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで交流しようとする資質・能力を育んでいくことを目的とし、主題を設定した。

## 2 実践について

### 「どきどき わくわく まちたんけん」

【UNIT 1】「自分の住んでいる町にはどんなものがあるのか。」

→ 1回目の町探検を行い、見つけたものや新しい発見を学級で共有する。町探検で見つけたものや新しい発見を地図に表す。

### 「もっと なかよし まちたんけん」

【UNIT 2】「自分の住んでいる町にはどんな人がいるのか？」

→ 2回目の町探検でお店や施設の人にインタビューをする。さらに知りたくなったことをメールやFAXで、情報収集をする。

### 「つながる 広がる わたしの 生活」

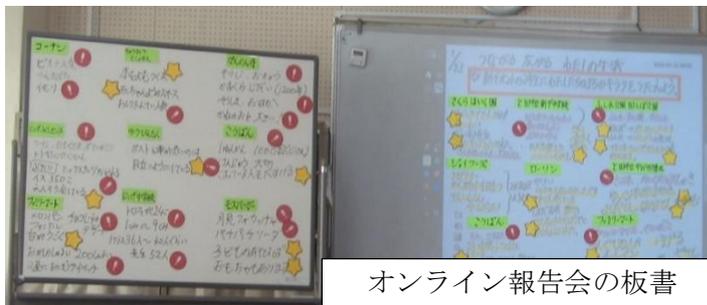
【UNIT 3】「自分が知ったことをだれに、どうやって伝えたいか考えよう」

→ 3回目の町探検でお店や施設の人に新聞を渡す。保護者向けに発表会を行う。

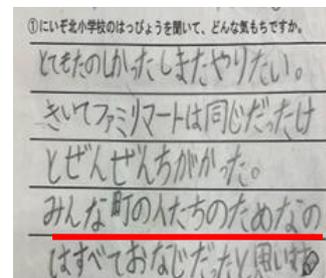
【UNIT 4】「まちたんけん知った『まちのキラリ』を伝えよう」

→ 同じ中学校区の小学校2年生と「町探検報告会」を行う。町探検の学習の振り返りを行う。

UNIT 3では保護者向けに発表会を行った。UNIT 4では近隣小学校の2年生と町探検で知った「まちのキラリ」（町のよさ）を伝え合うオンライン報告会を行った。それぞれの発表を教師が板書し、キラリマークや発見マークで示すことで、自分の町と相手の町を比べながら発表を聞くことができた。また、児童は自分の町と相手の町を比べ、相違点を見出すことで、自分の町のよさを改めて、捉え直すことができた。



オンライン報告会の板書



報告会 児童振り返り

## 3 成果と課題 (○成果 ▲課題)

○児童が「知ったことを伝えたい」と抱いた思いを生かし、充実を図ることで身近な人々に関わることのよさや楽しさを実感することができた。

▲オンライン交流は利便性が高いが、相手の表情を感じ取りにくい。今後は、場面を考え、活用する必要がある。

**総合的な学習の時間を中核とした教科等横断的なカリキュラム・デザイン  
～各教科等の資質・能力の活用・発揮と総合的な学習の時間の学習対象の利用・促進による  
教科等横断的な学びの視点から～**

久喜市立久喜小学校 林 大輔（前任校：加須市立礼羽小学校）

**1 主題設定の理由**

本研究では、教育目標の実現にむけたカリキュラム・デザインの仕方や教科等横断的な学びの具体的な姿を明らかにすることを目的とした。総合的な学習の時間を中核としたカリキュラム・デザインは縦と横のつながりで考えると分かりやすい。目指す資質・能力の育成にむけて教育目標と1単位時間の授業を縦でつなげるデザインと、資質・能力の活用・発揮と学習対象の利用・促進の2つの関連による横でつなげるデザインにより関連の仕方が明確になった。本研究は後者の学習対象の関連が中心の研究である。その結果、資質・能力の育成にむけた単元配列表や単元計画、1単位時間の授業における教科等横断的な指導が意図的に計画しやすくなり、目指す資質・能力の育成につながった。各教科等の学びをつなぐ教科等横断的なカリキュラム・デザインの構築により、授業改善やカリキュラムの評価・改善にもつながる有効な知見を得ることができた。

**2 実践について**

**ア 教育目標を見つめ直す縦のデザイン**

知・徳・体にあたる学校教育目標を学習指導要領が示す資質・能力の3つの柱で整理し、短期目標として整理した。知・徳・体のままでは、1単位時間の授業における姿が明確でなく、評価しにくいためである。長期目標である学校教育目標に対して、短期目標とは、ここ2、3年をかけて育成を目指す児童像のことである。

**イ 重点単元と関連単元による横のデザイン**

1つ目は、各教科で育成された資質・能力をより確かにするために、教科等で身に付けた資質・能力を総合的な学習の時間において「活用・発揮」する資質・能力の横断である。これを資質・能力関連と呼ぶ。2つ目は、総合的な学習の時間の学習対象を「利用」することで、各教科等の資質・能力の獲得が「促進」されるように意図的に単元を構想する学習対象の横断である。これを学習対象関連と呼ぶ。

**ウ 検証授業の実際**

①総合的な学習の時間 単元名：「加須うどんばずらせ隊！」70時間

○探究課題

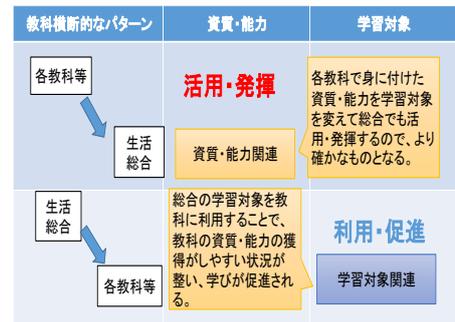
加須うどんの食文化の発展と地域活性化のために取り組んでいる人々の思いや努力

○活動

- ・加須市商工会、手打ちうどん会との連携によるPR活動（ふるさと納税の返礼品作成、市内うどん店へのポスター掲示・QRコードを用いてのチラシ型の情報発信）

②国語科 単元名：「伝統文化を発信しよう（書くこと）」5時間

単元のめあてとして、「ふるさと納税返礼品に納入する加須うどん紹介パンフレットを作る」という「書くこと」を設定する。また、教科の本質に迫るため、目的や意図に応じて簡単に書いたり、詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりする活動が充実することができるように、思考ツールを用いて文章構成を考える活動を取り入れた。



活用・発揮と利用・促進2類型



作成したポスター

**3 成果と課題**

教育目標から短期目標を設定し、1単位時間の授業に落とし込む縦のデザインにより、目指す資質・能力の育成に効果があることが分かった。また、単元配列において資質・能力と学習対象の2つの視点をもって横のデザインをすることで資質・能力の獲得に有効に機能したといえる。

総合的な学習の時間の内容は、教育目標と重なるため重点単元で育成された資質・能力の関連が計画しやすい。さらに、長い時間くりかえし探究し続けている総合的な学習の時間の学習対象を利用することで、教科の学びが促進されるため、学習対象の関連も計画しやすくなる。

以上のことから、総合的な学習の時間は教科等横断的な学びの中核として有効であるといえる。資質・能力と学習対象の2つの教科等横断的な視点を持ち、総合的な学習の時間を中核にして縦と横のデザインをすることで、カリキュラムや授業の意図が明確となり、目指す資質・能力の育成に有効に機能する。しかし、学習対象関連においては、他教科や他単元においても同様の効果が得られるのか、具体的な指導においてさらに効果的な手立てがないのか検証する必要がある。

# 総合的な学習の時間を中核としたカリキュラムの工夫・改善 ～各教科等を通じ、全ての学習の基盤となる言語能力の育成と活用～

熊谷市立三尻中学校 吉田 和貴

## 1 主題設定の理由

教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントを推進するためには、教科等の目標や内容を見直し、教科横断的な学習の充実を図る必要がある。熊谷市においては、「総合的な学習の時間」を中核としたカリキュラム改善により、教科横断的でオーセンティックな授業実践を通して、学力向上を目指しているところである。

そこで本校では、文部科学省から「授業時数特例校」の指定を受け、本研究主題を設定した。また、令和4年度実施の全国学力・学習状況調査の結果からは、実施教科共通で「自分の考えを、筋道を立てて記述すること」が課題として挙げられた。この実態を踏まえ、副題を掲げて重点をおき、研究を推進していくものである。

## 2 実践について

(1) 「総合的な学習の時間」を中核としたカリキュラムの見直し

- ア 全学年において総合的な学習の時間の授業時数を年間18時間増加、5科の時数を年間18時間減少
- イ 教科横断的なカリキュラムの作成
- ウ 「各教科」「探究的な学習の過程」「言語能力」について各教科等の年間指導計画へ明記
- エ 教科から総合的な学習の時間へ移行した単元について「単元構想シート」の作成

(2) 教科横断的でオーセンティックな授業の実現

- ア 「オーセンティックな課題事例集」の作成
  - イ 校内授業研究の実施
  - ウ 授業の内容に関わる新聞記事の選定、掲示
- (3) 全教育活動における言語能力の育成と活用の推進
- ア 「各教科等における『探究的な学習』で活用する言語能力表」(教員向け)の作成
  - イ 「中学校で身につけたい国語の力」プリント(生徒向け)の作成、掲示
  - ウ 国語科を要とした各教科等における言語活動の推進

オーセンティックな課題事例集

課題事例		
学年	教科	単元名
第2学年	社会	地域の在り方
目標	地域の在り方。ここで見られる地理的な問題について多面的・多角的に考察し、具現できる(思考・判断・表現等)	
1. 学級課題		
色々の地図類を比べてみよう ～新しい道筋の場所を決めよう		
説明：新しい道筋の場所を作ろう		
		
●学習活動 ・資料を読み、場所や道筋の目的をとらえる ・もっと安全な場所がどこか？データマップと様々な地図を比べ、提案する ●使用するもの ・各町マップweb ・比較する地図 ・自主発案の地図 ・自主地理地図		
2. 教科等・日常生活との繋がり		
学年	教科等・行事	単元名・内容
全学年	総合的な学習の時間	熊谷市プロジェクト 熊谷を知る
第1学年	理科	身近な大地の歴史

言語能力表

各教科等における「探究的な学習」で活用する言語能力			
課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現
① 目的・課題・問いを設定する ② 必要な情報・資料を収集する ③ 収集した情報を整理・分析する ④ 目的・課題・問いに照らして、結論や見解をまとめる	① 必要な情報・資料を収集する ② 収集した情報を整理・分析する ③ 目的・課題・問いに照らして、結論や見解をまとめる	① 目的・課題・問いに照らして、結論や見解をまとめる ② 目的・課題・問いに照らして、結論や見解をまとめる	① 目的・課題・問いに照らして、結論や見解をまとめる ② 目的・課題・問いに照らして、結論や見解をまとめる

## 3 成果と課題 (○ 成果 ▲ 課題)

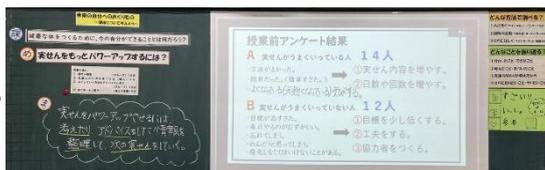
- R5全学調 生徒質問紙「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」に対して前向きな回答を選んだ生徒が大幅に増えていた。
- R5県学調学力レベル2年生：数・英で県平均+2、3年生：3科で県平均+1だった。
- 学習の振り返りに、「以前より説得力のあるプレゼンができるようになってきた。」や、「今後、自分の意見を述べる場面では、今日学んだことを生かしていきたい」などの記述多数。
- ▲ 教科横断的な授業を進める際、教科担当間の連携の在り方についてはさらに工夫が必要である。
- ▲ 授業全体を通じ、「現実社会に存在する、本物の実践に可能な限り近付けた教科横断的でオーセンティックな学び」を実現すべく、さらなる授業改善を図っていく。
- ▲ カリキュラム・マネジメントの効果については、今年度の生徒の姿・変容等から改めて考察する。

### 3 授業研究委嘱校報告

#### さいたま市立東岩槻小学校

- 1 日 時 令和6年11月21日(木) 13:45～14:30
- 2 授業者 第4学年 山田 佳津子 教諭
- 3 単元名 「未来の自分へのおくりもの」～健康について考えよう～
- 4 授業の概要

本単元は、探究課題を「毎日の健康な生活とその取組」とし、自分の健康について考えることを通して、今の自分のためだけではなく、未来を生きる自分のための健康維持のための生活の実践、そして、自分の身の回りの家族や友達の健康維持のための取組ができるような態度を育てていくことを目指して設定した。児童にとって、健康の大切さや身体がよりよく成長するために必要なことは分かっているものの、ついおろそかにしてしまうことが課題であり、話を聞いたり調べたりすることで、健康な生活の大切さ、健康を意識して生活することのするよさに気付くようにしていく。そして、自分の健康のために実践する活動を取り入れ、自分たちが健康であるためにできることがあることを知り、自分の生活や行動に生かそうとする態度を養っている。



#### 5 授業を振り返って

##### ○主体的、探究的な学びの充実について

児童は「よりよくなりたい」という意識を持ち、積極的に意見を出していた。テーマが児童にとって身近で、かつ意味のあるものであったため真剣に取り組む姿が見られた。配慮を必要とする児童にもきめ細かい支援を行い、学級の全員が活動に参加することができていた。また、探究的な試行錯誤を通じて、意欲的に自分自身の成長を目指している様子がうかがえた。

##### ○協働的な学びの充実について

児童は自分の考えを素直に伝えるとともに、具体的な数値を用いるとともに、相手の意見を尊重しながら議論していた。司会の役割を果たす児童がメモなしで進行する姿から、他教科での学びを活かしていることがうかがえた。ICTの活用による効率的な話し合いにも可能性を感じさせた。また、意見を鵜呑みにせず批判的に考えたり、思考ツールを活用したりすることで、より深い学びを目指している点も協働性の高さを示していた。



#### 6 指導講評

##### (1) 埼玉大学教育学部 教授 宇佐見 香代 先生

○児童の主体性を引き出すためには、活動の見通しをもたせ、個の考えを深めた上で協働の必要性を生むことが重要である。

○総合的な学習の時間に限らず、他教科にいても、協働が必然的に求められるタイミングを設計し、課題の原因分析や解決策を考えるプロセスを取り入れることが効果的である。

○児童の実態に応じた探究課題を設定し、科学的思考やリベラルアーツ的な視点を活用しながら、育てたい資質・能力を総合的な学習の時間で深めることが求められる。

##### (2) さいたま市教育委員会教育課程指導課主席指導主事兼研究推進・振興係長 佐久間 貴宏 先生

○全国学調の結果から、総合的な学習の時間は全教科にわたる学びを深める有用性が示されており、その重要性が再認識されている。

○思考ツールについては目的に応じた適切な活用が求められる。授業づくりでは、児童の実態や学校が抱える課題を踏まえ、年間を通じた計画的な指導が重要である。その際、地域人材を活用したり、探究的な学びをスパイラルで展開したりする点に配慮するとよい。

○「家族みんなが幸せになる」という視点や「健康」というテーマを通じた学びが児童の人生観や家庭へよい影響を与えるのではないかと感じる授業であった。

## 川越市立川越第一小学校

- 1 日 時 令和7年2月7日
- 2 授業者 第6学年 福島 大祐 教諭
- 3 単元名 「発信～川越の魅力～」
- 4 授業の概要

本単元は、川越の人・もの・ことを川越の魅力として扱う。川越の魅力を再発見するために、これまでの各教科等で学んだことを生かしながら、観光客へ紹介するという意欲をもち、発信していく。

川越の魅力を現地に行って調査しながら、魅力をより効果的に発信できるようになるために、魅力や歴史を伝えることを仕事としている観光ボランティアや博物館の方々の話し方の工夫、資料の掲示の仕方、代表的な観光地のPR活動などを理解する。そして自分自身が伝えたいと思ったことを確実に対象に届けるために、その場所を訪れてみたい、訪れてよかったと思うような発信方法を考え、地元・川越に対する愛着を高めるとともに、より多くの人に川越の魅力を伝えていくことができるようにする。

本時では、動画で取りあつかう内容を友達と検討する。友達との対話を通して、より効果的に発信内容を伝えられるようにするとともに、しっかりと根拠をもって説明できるようにさせる。

### 5 授業を振り返って

#### ○ICTの活用について

本時では、川越氷川神社で紹介したいものについて順序付け、説明する場面でピラミッドチャートを活用した。

話し合いの中でアドバイスされたことを付け足したり、アドバイスを聞き優先して紹介したい事柄を変えたりと効果的に使用できた。

#### ○話し合い活動について

ピラミッドチャートを見せながら、自分が観光客だったらという視点で話し合い活動を行うことができた。導入の段階で子供たちと本時の目的をしっかりと共有できたことが、話し合いが充実した要因だと考えられる。今後も導入時のめあての共有を大切にしていきたい。

#### ○板書について

本時は話し合いが中心で、黒板には動画づくりの目的などを印刷した掲示物を貼るのみであったが、話し合い終了後に子供たちが気づいたことや考えたことを全体で共有する場面で、黒板に書き出すことで子供たちが本時に行ったことの更なる定着につながったのではないかと考える。



### 6 指導講評

(文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官 齋藤博伸先生)

#### ○本時の授業から

導入は短時間で簡潔に済ませており、子供たちとも共有がしっかり出来ていた。一方で音声言語は頭から消えていく傾向があり、本校の児童も話し合い活動でポイントについて話し合いができていたにもかかわらず、授業終盤に質問すると、話し合った内容が抜けていた。それを防ぐために、子供から出た言葉を黒板に残してあげることが有効である。

#### ○ICTについて

本時ではピラミッドチャートをクロムブックにて作成した。タイピング能力が高ければこのような形で行うことは有効である。学校全体で、タイピング能力がどれくらいの位置にあるのかということ把握することが今後の授業づくりにおいては必要である。



第26回 関東地区小学校生活科・総合的な学習  
教育研究協議会 埼玉大会

1 研究主題

「つなぐ・いかす・深める」  
～ワクワクする本物の学びを目指して～

2 期 日 令和6年10月25日（金）

3 会 場 熊谷市立新堀小学校

4 大会の概要

急激に変化する時代の中で、一人一人の子供たちが、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、資質・能力を育成することが求められている。そのため「つなぐ・いかす・深める」～ワクワクする本物の学びを目指して～を大会テーマに掲げ、学びをつなぐこと、いかすこと、深めることに着目し、質の高い学び（オーセンティックな学習）を展開していくことができるように研究に取り組んだ。

大会当日は、熊谷市立新堀小学校を会場に、公開授業、開会行事、授業別研究協議会を行った。午後には各都県提案者による課題別分科会、記念講演を行い、盛会の中での終了となった。

【公開授業】

1年生・2年生は生活科を、3年生から6年生は総合的な学習の時間の授業を公開して頂いた。



【開会行事】

主催者挨拶の後、埼玉県教育局市町村支援部長 吉田 勇 様、熊谷市教育委員会教育長 野原 晃 様より御挨拶を頂戴し、大会に花を添えていただいた。御挨拶を頂いた方以外にも多数の御来賓の方に御臨席頂いた。

【授業別研究協議会】

6学年に分かれて、授業別研究協議会を行った。県内外の先生方から多くの御意見を頂戴し、子供たちの具体的な姿を基に、活発な議論が行われた。

【課題別分科会】

「つなぐ・いかす・深める」～ワクワクする本物の学びを目指して～の大会主題の下、本県及び各都県の提案者から、具体的な子供の姿を基に貴重な御実践を御提案頂き、参会者による活発な協議が行われた。

【記念講演】

「これまでの生活・総合を振り返り、これからの生活・総合を考える」という演題の下、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 齋藤 博伸先生より御講演を頂いた。生活科や総合的な学習の時間の変遷や、全国の様々な実践、有識者検討会で話し合われている今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方等について分かりやすく講演して頂いた。



## 4 令和6年度講演会記録

演題 「これからの生活科・総合的な学習の時間に求められること～変化する社会・多様化する学び～」

元文教大学 教授 嶋野 道弘 先生

### 1. 変化する社会と求められる教育

「不登校特例校」の名称が廃止され、「学びの多様化学校」(R5. 08. 31)とされた。不登校児童の登校が目標ではなく、学びを止めないようにすることが重要。特例とされていたことが、そうではなくなる、つまり多様性を認める時代へと変化した。これは、令和の文明開花と言えるのではないかな。

社会の変化として、持続可能な社会の創り手を育む教育 (ESD)、持続可能な開発目標 (SDGs)、教育 DX、Society5.0、AI、ポストコロナ等があげられる。私たちは、曖昧で変化の激しいVUCA (ブーカ) 社会を生きている。その中で求められる教育は、以下の通りである。

VUCA (ブーカ) 社会の現状	求められる教育
急速に変化している状況 (変動性)	変革、刷新
不確実な要素が多く、予測できないことが当然のように発生する状況 (不確実性)	未知の状況にも対応できる資質・能力
様々な要素が複雑に絡まり合っているため、単純な解決策を導き出すのが難しい状況 (複雑性)	対話・協働
複雑で曖昧な課題であるため、断言できる絶対的な解決策がない状況 (曖昧性)	納得解、最適解

### 2. 生活科・総合に求められること

学校 ver3.0 (学びの時代) において、「主体的・対話的で深い学び」を中核として、「対話・協働する学び」「実社会・実生活と関わる学び」「個別最適な学び」の実現が目指されている。これらは、生活科や総合で大切にしてきた学びに根ざしており、今後生活科や総合の存在意義が一層高まっていくことが予測される。



また、これからの社会で求められる人材像は、人間の強みをもっているということである。そうであれば、AI に全て取られてしまう可能性もある。そのために、幼小中一貫 (12 年間教育) を行う、体験や探究を重視する、実社会・実生活とのかかわりをもつ、教科横断的・総合的に行う等が、学びの在り方として必要になる。

#### 【例】地域に根ざすふるさと教育

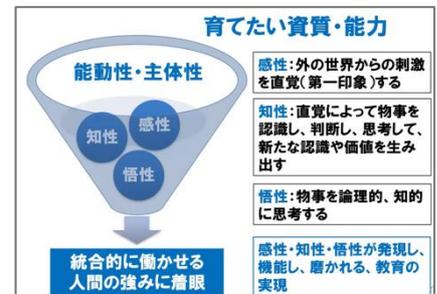
現代社会の問題を自らの問題として主体的に捉え、人類が将来の世代にわたり、恵み豊かな生活を確保できるように、身近なところから取り組むことで問題の解決につながる新たな価値や行動の変容をもたらし、持続可能な社会の次元を目指していくという理念がこれからの教育を考える大きな柱となる。

これらの中で様々に議論されているのが、人間中心の教育である。人間中心の教育とは、「人間を中心」

として、一人一人が他者とのかかわりの中で「幸せ」や「豊かさ」を追求できる社会を実現する担い手を育てていく教育のことである。人間の強みとは、①現実世界を理解する、②状況に応じて意味付ける、③倫理的に思考し、行為する、④ジレンマや想定外と向き合う、⑤責任をもって遂行する。以上の5点が挙げられる。この人間の強みを生かすためには、文章や情報を正確に読み解き対話する力や、科学的に思考・吟味・判断し、活用する力、意味や価値を見つけ出す感性や情緒、問いをもつ好奇心や探究心等が必要である。

これらを踏まえて人間の強みに着眼する教育を行うとは、人間らしい感性・知性・悟性を総合的に働かせることができるようにすることである。それらが働くためには、能動性や主体性が保証されなければならない。つまり、能動的な学習者を育てることが、人間の強みに着眼する教育であると言ってもよい。

では、具体的にはどのような教育なのか例を挙げる。



### ○人間の強みである言語活動

学習指導要領の中で、言語は児童生徒の学習活動を支えるものであり、言語能力は全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤であると位置付けられており、人間にとって言語は、認識思考などの知的活動、伝え合い、感性や情緒の基盤となるものでもある。

#### 【例】熊谷市立三尻中学校 「熊谷改革を提言しよう」の実践より

熊谷市の状況を調査し、対話協働しながら学び、提言文を作成し、市長に提案しようという学習を行なった。双括型の文章構成で、アンケートの結果を数値で示しながら防災・危機管理体制への意識を高め、全国避難所ガイドを推進することの重要性について論理的に伝えることができた。

☞言語能力の向上とともに、シチズンシップ（市民性）の高揚につながる実践。

#### 【例】生活科「ぶらんこ」で遊ぶ子供の世界

「ぶらんこからおりたら手が、まがったままになってしまいました。」「手がまだ、ぶらんこのにおいがします。」等、ぶらんこで遊んだありのままの姿を日記に綴っている様子が見られた。

☞遊びを通して感性を働かせる中で、言語を働かせていった実践。

### ○架け橋期の学習

#### 【例】アリの観察

アリの観察する子どもたち。アリが小さな穴から出入りしていることに気付き、友達と話しながらその様子に見入っている等、見れば分かることだけではなく、そこに生まれている「思考力の芽生え」や「協働性」「言葉による伝え合い」等、見ただけでは分かりにくい子どもの学びがある。

☞育ちと学びは幼児期から連続・発達している。また、生活とつながっている。教師が、子どもたちの中に芽生えているものを見取る力をつけなくてはならない。また、入学時の子どもたちの学びと育ちを受け止めて、子どもたちが**安心**して生活し、のびのびと自己を**発揮**し、自分の力でやってみようとする姿（**自立**）を見守ることが大切。

### 3. 生活科・総合の指導の要点

#### ◎個別最適な学び

多様性を生かし、個別具体的な学びを実現すること。学級全員で揃えない、まとめない。

#### ◎対話・協働する学び

納得解や最適解を出すために様々な場面で行うこと。

#### ◎実生活・実社会とかかわる学び

今まで以上に体験と表現を重視すること。問い(?)をもち、対話・協働し、納得(!)することを発展的に繰り返していくこと。

#### ○生活科の源流・本流から見る不易の要点

平成5年度版の学習指導要領から一貫して「児童の多様性」という言葉が含まれている。また、「振り返り表現すること」、「伝え合い、交流する」、「情緒的なかわり」、「試行錯誤や繰り返す活動」を大切にしてきた。能動的な活動を基盤とし、五感で受け止め、情緒を働かせ、表現し実感していくのが変わらない生活科の学びの要点である。

【例】生活科「おもちゃづくり」 所沢市立宮前小学校 佐藤恵教諭

身の回りにある身近材で遊ぶことで、「いつもはすてるものをあつめておいてあそぶと楽しめることがわかりました。」「作らないとあそべないと思っていました。」等、工夫することでいろんな遊びがあることに気づく姿があった。

⇒素材から考えたことにより、子どもたちが新たな価値を創造したり、概念を再構築したりした。

【例】生活科「ていねいに手を洗おう」入学当初の1年生

児童「ていねいに手を洗おう」って書いてある→教師「どうする?」と尋ねると、子どもから「こうする。」というアイデアが出てきたものを教師が順番に並べた。

①うでをまくる→②水を出す→③手をぬらしてせっけんをつける④ゴシゴシ→⑤水を洗う→⑥水を止める→⑦水をきる→⑧タオルやハンカチでふく

⇒教師が教えているが、教え込んではない。知識や経験を引き出して納得に導いている実践。知識と経験を合わせると、実生活に生きて働く活用知になる。

### 4. まとめ

学びの多様化時代で、子どもたちが自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けることが必要。そこで、生活科・総合に求められる教育とは、対話・協働を通して、

- ①知識・情報・経験を関連付けてより深く理解する学び。
- ②問題(?)を見出して納得解・最適解(!)を考える学び。
- ③思いや考えを基にして創造する学び。

以上、3点の実現である。子どもたちが直面する現実には固有で多様であるが、具体的な事象との関わ

り合いを通して生まれる「知、情、意」こそが、人間の生きる力や社会を創造する力になる。それが、オーセンティック（真正）な学びである。

## 5. 生活科・総合の深い学びを具現する手立て

カリキュラムをデザインし、実施した後に評価、改善するマネジメントが非常に重要である。そのために、いくつかのチェックポイントをもっておくとよい。自分で項目を増やしてもよい。

### 「生活科」の深い学びを具現する手立てチェックリスト

- 具体的な活動や体験を通す
- 熱中・没頭する時間を大切にする
- 諸感覚や身体を活発に働かせる
- 「快（楽しい）」の感情を次の活動や体験に生かす
- 試行錯誤(trial and error)の過程を大切にする
- 体験と表現（特に「言語活動」）を発展的に繰り返す
- 具体的な活動や体験から生まれる思いや願いの実現を目指す
- 自発性・能動性が発揮できる環境を整える

### 「総合的・探究的な学習」の深い学びを具現する手立てチェックリスト

- 実生活、実社会の事実（現実の問題）や尽力している人と関わる
- 探究の過程を発展的に繰り返す（疑問、問題、課題を更新する）
- 公表して外部の評価を受ける
- 「考えるための技法（思考ツール）を効果的に活用する
- 言語・表現活動（要約、紹介、報告、地図、ポスター等）を行う
- 算数的活動（計算、計測、図表、グラフ、統計等）を行う
- 実験・観察・調査活動（インタビュー、アンケート等）を行う
- 取組む目的、意義や価値を再三検討・確認する
- 成果物(制作物、イベント、作品、論文等)の作成を目指す
- 学びを自分との関係で見つめ、振り返り、問い続ける

## 終わりに

今の社会をどう捉えるか、その社会に応じて教育は変わっていくものである。社会が変われば学びが変わる。学びが変われば授業は変えざるを得ない。という視点をもつべきである。

教科の本質を残した上で、人間の強みを生かす人間中心の教育を念頭に置き、指導観、教育観、子ども観を作り、授業改革していかなければならない。一人一人が自分の能力や個性を発揮して、豊かな生活や社会を作っていくことが大切である。

## 5 事業報告

埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会

月	令和6年度 事業計画	
4月	26日(金)	○ 事務局幹事打合せ会 於：Zoom 15時～16時
5月	14日(火)	○ 常任理事会(会長・副会長・常任理事・幹事) 於：Zoom 14時～16時30分
6月	14日(金)	○ 講演会及び総会 於：Zoom 14時～16時30分 演題「これからの生活科・総合的な学習の時間に求められること」 講師 元文教大学 教授 嶋野 道弘 先生
7月	2日(火)	○ 第1回 指導法研究委員会 於：Zoom 14時～16時 ・委員の委嘱 ・指導事例集の形式 ・執筆分担
7月	30日(火)	○ 研究発表会 於：Zoom 13時15分～16時30分
8月		(生活) 戸田市立芦原小学校 教諭 若林 広泰 先生 (総合) 久喜市立久喜小学校 教諭 林 大輔 先生 (総合) 熊谷市立三尻中学校 教諭 吉田 和貴 先生
9月	8日(木)	○ 第2回 指導法研究委員会 於：Zoom 9時～12時 ・執筆内容の再検討
	6日(金)	○ 常任理事会(会長・副会長・常任理事・幹事) 於：Zoom 15時～16時30分
10月	25日(金)	○ 第26回関東地区小学校生活科・総合的な学習の時間教育研究協議会埼玉大会 於：熊谷市立新堀小学校 8時30分～16時30分
11月	5日(火)	○ 第3回 指導法研究委員会 於：Zoom 14時～16時 ・執筆内容の再検討 ・原稿締め切り12月上旬
	7日(木)	○ 全国大会(岩手・盛岡市)
	8日(金)	
	21日(木)	○ 授業研究委嘱校発表会 (さいたま市) さいたま市立東岩槻小学校
12月	中旬	○ 研究集録「生活・総合」作成 ・会議は開かず郵送での連絡調整により、研究集録を作成する。
2月	7日(金)	○ 授業研究委嘱校発表会 (入間地区) 川越市立川越第一小学校
	19日(水)	○ 常任理事会(会長・副会長・常任理事・幹事) 於：Zoom 14時～16時
3月	中旬	○ 事務局幹事打合せ会 於：Zoom 15時～16時

## 6 埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会会則

### 第一章 名称・事務局・会員

第一条 本会は埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会と称し、事務局を会長指定の学校に置く。

第二条 本会は埼玉県内小学校生活科関係教員・小中学校総合的な学習の時間関係教員を会員とし、埼玉大学生生活科・総合的な学習の時間担当教員、県・市町村教育委員会生活科・総合的な学習の時間担当指導主事を特別会員とすることができる。

### 第二章 目的・事業

第三条 本会は生活科・総合的な学習の時間教育の振興を図ることを目的とする。

第四条 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 生活科・総合的な学習の時間教育に関する研究・調査
2. 会員相互の研究発表・指導法の研究
3. 研究成果・資料等の刊行
4. その他必要な事業

### 第三章 組織・役員

第五条 本会に次の役員を置く。

1. 会 長 一名
2. 副 会 長 若干名
3. 理 事 若干名
4. 常 任 理 事 若干名
5. 監 事 二名
6. 幹 事 若干名

第六条 役員は次の方法によって選出する。

1. 会長は、理事会において選出する。
2. 副会長は、理事会において、東西南北の各地区、さいたま市よりそれぞれ若干名を選出する。  
東西南北の地区については、東部（北埼玉・埼玉葛）、西部（比企・入間）南部（北足立南部・北部）、北部（秩父・児玉・大里）に分けるものとする。
3. 理事は、各地域教育研究団体生活科研究部・総合的な学習の時間研究部小、中学校より若干名をもってこれにあてる。
4. 常任理事は、各教育事務所管内より各一名又は、二名を選出する。但し、理事会の承認を得て地域の実情を考慮し、その人数を増すことができる。
5. 監事は、総会において選出する。
6. 幹事は、会長が委嘱する。

第七条 役員は次の職務を行う。

1. 会長は、本会を代表して会務を総轄する。
2. 副会長は、会長を補佐し、会長事故ある時はその職務を代行する。

3. 理事は、理事会を構成し会務を審議する。
4. 常任理事は、常任理事会を構成し会務を執行する。
5. 監事は、本会の会計を監査する。
6. 幹事は、本会の庶務会計にあたる。

第八条 役員の任期は一年とする。但し、再任することもできる。  
補欠役員の任期は前任者の残任期間とする。

第九条 本会に顧問及び参与を置くことができる。顧問及び参与は、本会に功労のあった者又は生活科・総合的な学習の時間教育について学識経験のある者について理事会が推薦し、会長が委嘱する。

#### 第四章 会議

第十条 本会の会議は、総会・理事会・常任理事会・その他とし、原則として、会長が招集する。

第十一条 総会は、毎年一回開催し、次の事項を行う。但し、理事会をもって、総会にかえることができる。また、必要に応じて、臨時総会を開催することができる。

1. 会務および決算の報告および承認
2. 事業計画ならびに予算の承認
3. 監事の選出
4. 会則の変更
5. 役員の承認

総会の議事は、出席会員の過半数をもって決し、可否同数の時は議長がこれを決する。

第十二条 理事会は、会長・副会長・常任理事・理事・幹事で構成し、会務を審議する。但し、会長の委嘱を受けた特別会員を加えることができる。

第十三条 常任理事会は、会長・副会長・常任理事・幹事で構成し、会務の執行、事業の企画、予算案の編成をする。但し、会長の委嘱を受けた特別会員を加えることができる。

#### 第五章 会計

第十四条 本会の経費は会費・補助金及び寄付金などをもってあてる。

第十五条 本会の会計年度は四月一日から翌年三月三十一日までとする。

#### 付 則

第十六条 本会則の変更は、総会の議決による。

第十七条 本会則は平成二年十二月七日よりこれを実施する。

(平成3年6月5日 一部変更)

(平成7年6月13日 一部変更)

(平成9年6月11日 一部変更)

(平成11年6月16日 一部変更)

(平成13年6月22日 一部変更)

(平成16年6月22日 一部変更)

(平成19年6月19日 一部変更)

(令和5年6月14日 一部変更)

あとがき

埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会  
副会長 萩原 美樹

研究収録「生活・総合」第35号が、本会各地区の先生方の御協力と御尽力をいただき発行できましたことに、心より感謝を申し上げます。

本研究会の活動の大きな事業の一つである夏の研究発表会は、コロナ禍で得た経験を活かし、今年度もオンラインでの開催となりました。戸田市立芦原小学校 若林 広泰先生、久喜市立久喜小学校 林 大輔先生、熊谷市立三尻中学校 吉田 和貴先生の3名の先生方に実践を発表していただき、それをもとに熱心に協議を行うことができました。また、昨年を引き続き、共栄大学教育学部教授 小川 聖子先生に、具体的で細やかなご指導をいただきました。参加された皆様も多くのことを学ばれたことと思います。

10月には、第26回関東地区小学校生活科・総合的な学習の時間教育研究協議会埼玉大会が開催されました。熊谷市立新堀小学校で7つの授業を公開していただきました。大会テーマ「つなぐ・いかす・深める～ワクワクする本物の学びを目指して～」のもと、学校や地域の実態に即し、様々な工夫がちりばめられた授業を公開していただきました。授業別分科会、課題別分科会とも、熱心な協議が行われました。記念講演では、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 齋藤 博伸先生から具体的な御指導と今後の方向性についてもご示唆いただきました。熊谷市立新堀小学校の研究の成果を今後、各学校の授業実践につなげていただくことで、「ワクワクする本物の学び」が県内に広まるのではないかと思います。予測困難な時代、社会の急激な変化が叫ばれる中、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していく力等を身に付けさせようと各学校で様々な授業実践がされています。生活科・総合的な学習の時間の授業実践の充実に向けて、この研究収録を積極的に御活用いただければ幸いです。

結びに、オンラインでの研究発表並びに研究収録の刊行にあたり、原稿や資料など多大なご尽力を賜りました関係者の皆様、御指導・御協力を賜りました多くの皆様に、心より御礼を申し上げます。

#### 編集委員の構成

編集長	川口市立新郷小学校長	萩原 美樹
副編集長	神川町立神泉小学校長	田島 司
	滑川町立福田小学校長	樋口 貴子
編集委員	桶川市立桶川西小学校教頭	桶場 能成
	さいたま市立南浦和小学校	小野 玲美
	川口市立辻小学校	高野 すみ
	桶川市立加納小学校	中村 駿之
	所沢市立北小学校	牧野 涼子
	小川町立みどりが丘小学校	塚本 美家
	秩父市立尾田蒔小学校	小林 悠
	神川町立神川中学校	荻野 大樹
	深谷市立深谷小学校	菊地 佑季乃
	行田市立見沼小学校	金山 智玲
	白岡市立白岡東小学校	高柳 太一
事務局	埼玉大学教育学部附属小学校	横田 典久
	埼玉大学教育学部附属小学校	鈴木 康平
題 字	埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会 元副会長	栗田 豊彰
表紙絵	「しまうまとさんぽ」 蕨市立北小学校	1年 小島 侑久

発 行 者	生活・総合 第35号
発 行 日	埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会 令和7年2月19日